年表

時代		和年号	西暦	主なできごと
古代	旧石器時代		一五万年	牛川人（愛知県豊橋市）
			一〇万年	早水台（大分県）・星野（栃木県）地方に旧石器文化
			三万年	岩宿（群馬県）・鷲羽山（岡山県）地方に旧石器文化
	先土器時代			成田空港内・印旛沼周辺に旧石器文化
				小見川町阿玉台北遺跡よりナイフ形石器・スクレーパー・ポイント形石器、銚子市野尻遺跡よりナイフ形石器が出土、東総地域に先土器時代文化の存在を示唆
	縄文時代			小見川町城ノ台貝塚・東庄町龍神山・羽計台地・東庄中学校周辺に縄文早期文化発生
			（紀元前）C八〇〇〇	東庄町平山・高部・小貝野・東和田・青馬・小南地区に縄文前期文化発生
			B早期	銚子市粟島台遺跡・荒野台遺跡に縄文文化発生（前期～後期）
			前期	東庄町平山・高部・小貝野・東和田・青馬・小南地区は前代にひき続き縄文文化が継続、窪野谷・東今泉地区に縄文文化が伝播
			中期	飯岡町下永井・佐原市下小野貝塚・小見川町阿玉台貝塚などに縄文文化成立
			後期	東庄町平山・小貝野・東和田・小南地区には前代にひき続き縄文人が生活、高部・青馬・窪野谷・東今泉地区の縄文中期人は他へ移動？
				大友・宮本・鹿野戸地区に新たに縄文人移住、羽計台地上に再び縄文人生活、こ

時代	和年号	西暦	主なできごと
古代			
縄文時代		晩期	のころ縄文人は台地から低地へ移動する傾向を示す（鹿野戸地区・羽計台地北側低地・銚子市余山貝塚など）
			台地上の縄文人小貝野地区・小見川町良文貝塚などに集住？
			銚子市余山貝塚・八木八祖遺跡などに縄文晩期文化
			このころ農耕・金属器が北九州地方に伝来
		BC三〇〇	北九州地方（福岡県）に弥生文化発生（板付遺跡・立屋敷遺跡など）、各地へ伝播
弥生時代			千葉県内はまだ縄文文化の時代
		BC一〇〇	北九州地方に部落国家成立（漢書地理志）
			千葉県内各地に弥生文化広がる（松戸市大谷口遺跡・市川市須和田遺跡・君津市八重原遺跡・千葉市星久喜遺跡・東金市平藏台遺跡・安房郡粟野台遺跡など）
			倭の奴国、中国に朝貢、後漢光武帝より印綬を（金印）授かる
		AD五七	倭国王後漢に朝貢、生口（奴隷）一六〇人を献ず
		一〇七	このころ東総各地に弥生文化広がる
			東庄町平山・八木山・窪野谷・高部・大友・青馬・小南・羽計・新宿・東今泉地区など、小見川町阿玉台北遺跡・天神遺跡・干潟町桜井遺跡・銚子市佐野原遺跡・野尻遺跡など
			このころ東総地方に水稲耕作始まる（銚子市野尻遺跡より岩化米出土）
		二三九	邪馬台国女王卑弥呼魏に遣使、金印紫綬を受ける（魏志倭人伝）
		二四七	女王卑弥呼狗奴国の男王卑弥弓呼と和せず戦う（魏志倭人伝）

古代	古墳時代		三〇〇	このころ大和国家成立、以後、国内統一事業を継続 東葛飾郡北作一号墳・長生郡能満寺古墳など造営される（県内最古の古墳） 東庄町平山・高部・窪野谷・青馬・小座・大友・東和田・粟野・笹川・羽計地区に古墳文化発生、前山地区に祭祀遺跡
			四〇〇	東京湾東岸の地域に大型の前方後円墳が造営される（内裏塚古墳―小糸川流域―・祇園大塚山古墳―小堰川流域―・姉崎二子塚古墳―養老川流域―など）大和政権の権力が先ずこの地域に浸透 埼玉県稲荷山古墳造営される、大和政権の国内浸透度を示す 小見川町城山5号墳造営される このころ下海上国造設置される
			五〇〇	倭の五王宋に遣使 大和政権房総各地に権力を浸透、各地の中小豪族も大和政権支配下に編入される 小見川町城山1号墳・横芝町殿塚古墳・成東町西ノ台古墳など造営される 東庄町高部・窪野谷・大友地区に古墳時代人生活
		五三八	仏教伝来（百済聖明王仏像・仏具・経典を日本にもたらす） 聖徳太子摂政就任（六二二まで）、四天王寺創建
	推古	五九三	第一回遣隋使派遣・法隆寺創建
	元年	六〇七	このころ東庄町全域（低地を含む）に古墳時代人定住、古墳文化盛行 東総地域で鉄の生産盛行（東庄町の各遺跡より鉄滓が多数出土） 東庄町婆里古墳・扶食古墳・前山古墳・稲荷入古墳群など造営される 横穴式古墳造営が盛行する（羽計横穴墳・夏目横穴墳・今郡横穴墳群など）
	一五年		大化改新おこる 地方行政区画再編成される（下海上国・印旛国・千葉国は統合され下総国とな
	孝徳	六四五	
	元年		

時代	和年号	西暦	主なできごと
古代　飛鳥時代	持統　八年	六九四	り、下海上国は香取郡・海上郡・匝瑳郡に三分される）
	大宝　二年	七〇二	下海上国造・海上郡司として東庄町に移転
	和同　三年	七一〇	橘地区に大古墳群
			藤原京造営される
			大宝律令施行
			平城京遷都
奈良時代	天平　一三年	七四一	助丁海上郡の海上国造他田日奉直得太理の歌、万葉集に載せらる
	延暦　四年	七八五	「下総国海上郡酢水浦若海藻御贄太五斤中」の木簡平城宮跡より出土
	延暦　一三年	七九四	諸国に国分寺創建
			下海上国造他田日奉直徳刀自、外従五位下に任ぜらる
			東庄町台地上に墨書土器発見（平山地区中心）郡家の存在を示唆
			平安京に遷都
平安時代	大同　二年	八〇七	このころ、民家は前時代以来の竪穴式住居、一部は掘立柱による家屋
	天長　六年	八二九	諏訪大神創建（社伝）
	仁和　元年	八八五	満願寺建立（寺伝）
	天慶　二年	九三九	下総国海上郡大領外正六位上海上国造他田日奉直春岳、外従五位下に任ぜられる。
	康保　元年	九六四	平将門の乱
	万寿　四年	一〇二七	窪谷神社、近江坂本より勧請（社伝）
	長元　元年	一〇二八	平忠常の乱
	三年	一〇三〇	忠常、安房に侵入
			忠常、再度安房国府を襲げき

時代	年号	年	西暦	事項
古代 平安時代	永保	四年	一〇三一	忠常降伏、京都への護送中、美濃で病死
	寛治	三年	一〇八三	後三年の役おこる
	康和	六年	一〇九二	平常将、平山に四か寺（来迎寺・芳泰寺・西光寺・浄光寺）を建立
	大治	四年	一一〇二	海上郡高見浦に異状現象発生、東大社高神磯に御神幸（社伝）
	保延	元年	一一二六	千葉常重、亥鼻山に築城
	保元	二年	一一三六	立花郷の名初見
	仁安	元年	一一五六	保元の乱
	治承	二年	一一六七	東福寺開山（寺伝）
	寿永	四年	一一八〇	頼朝、平家討伐の兵をあげる
	元暦	三年	一一八四	2・1一谷合戦、常胤・胤頼参戦（吾妻鏡）
	文治	元年	一一八五	千葉常胤、下総介に任ぜられる
中世 鎌倉時代				平氏滅亡
	建久	五年	一一八九	橘庄二位大納言領になる（吾妻鏡）
		三年	一一九二	奥州平泉の藤原氏討伐に常胤・胤頼が参加軍功をあげる。
	正治	三年	一二〇一	頼朝、征夷大将軍となる
	建永	二年	一二〇七	常胤没す
	建保	六年	一二一八	守護千葉氏、香取神領全域を支配する
				胤頼、森山城を築いて須賀山城より移る
	承久	元年	一二一九	胤頼、東徳寺の堂塔を再興
		三年	一二二一	胤行、将軍実朝の鎌倉八幡宮参詣に供奉
	貞応	元年	一二二二	承久の変、東胤行軍功により美濃山田庄を加領
				日蓮が小湊に誕生

時代	和年号	西暦	主なできごと
中世			
鎌倉時代	貞応 二年	一二二三	東胤景、妙幢院を開基（寺伝）
	安貞 二年	一二二八	10・12胤頼没す
	寛喜 三年	一二三一	西福院開基（寺伝）
	宝治 元年	一二四七	宝治合戦、三浦氏滅亡、千葉秀胤上総国大柳館で滅亡
	二年	一二四八	胤行、将軍頼嗣の右筆として問状・御教書を掌る
	弘長 三年	一二六三	胤行没す
	文永 十年	一二七三	蒙古襲来、千葉頼胤、肥前に在留、九州千葉氏が分立する
	弘安 四年	一二八一	弘安の役
	九年	一二八六	東盛胤、歓了禅師を招いて藏福寺を開山（寺伝）
	元亨 元年	一三二一	6・22東六郎盛義の所領の内上代郷の三分の一が収公、金沢称名寺に寄進される（金沢文庫文書）
	二年	一三二二	2・29上代郷左右大神の初見（金沢文庫文書）
室町時代	建武 元年	一三三四	建武の中興
	三年	一三三八	足利尊氏、京都に室町幕府をひらく
	康永 二年	一三四三	8・4称名寺雑掌左衛門尉光信、東胤義の狼藉を幕府に訴訟（金沢文庫文書）
	延文 二年	一三五七	小座字塙の板碑の造立
	応安 七年	一三七四	「海夫注文」に石出津・今泉津・笹川津が見える（香取文書）
	康暦 二年	一三八〇	平山字寺台墓地、板碑の造立
	永徳 三年	一三八三	12・20鎌倉御所足利氏満、小南郷を「勝福寺」に寄進（東慶寺文書）
	明徳 三年	一三九二	南北朝の統一
	応永二十三年	一四一六	玉子大明神社殿修造、その時「宝函」が納められる

中世	戦国時代	永享 二十九年	一四二二
		永享 十年	一四三八
		康正 元年	一四五五
	室町時代	応仁 二年	一四五六
		応仁 元年	一四六七
		文明 二年	一四六八
		文明 元年	一四六九
		長享 三年	一四七一
		長享 三年	一四八八
		天文 七年	一五三八
		天文 十九年	一五五〇
		永禄 元年	一五五八
		永禄 二年	一五五九
		三年	一五六〇
		五年	一五六二
		七年	一五六四
		八年	一五六五
		十一年	一五六八

益之、将軍の歌会に出席
永享の乱
8・千葉胤直・胤宣父子、馬加康胤らに攻められ、多古千田庄に敗滅
千葉氏の内紛を鎮圧のため、東常縁美濃より関東に下向する
東常縁東庄に到着、香取王子社（東大社）に歌を献じて戦勝を祈願する
東常縁の弟二郎教胤須賀山城に入る
1・常縁、上総八幡で馬加康胤を討滅
応仁の乱
美濃において斉藤妙椿に篠脇城を落され、山田庄占領される
常縁、両総平定を中止、上洛する
常縁、宗祗に古今伝授
小座観音堂建立（先代集）
国府台前役
キリスト教伝来
12・長福寺開基（寺伝）
11・僧弘道、東林寺を創建（寺伝）
東氏と庶流遠藤氏が対立、赤目山城に東氏敗滅
9・大久保の愛宕神社勧請
正木氏、北総侵攻を開始（夏方原古戦場の伝説）
10・遠藤慶隆、王子社へ田銭を寄進
国府台後役
千葉胤富、海上八幡宮へ社領寄進
織田信長入京

時代	和年号	西暦	主なできごと
中世　戦国時代	天正　元年	一五七三	室町幕府滅ぶ
	十二年	一五八四	千葉介邦胤・原親鈍ら、東大社に大般若経を寄進（東大社文書）
	十八年	一五九〇	小田原落城、豊臣・徳川勢が房総攻略、千葉氏滅ぶ 徳川家康、江戸入封、家康の異父弟松平定勝、小南（およびその周辺）三〇〇〇石の領主となる
近世　江戸時代	十九年	一五九一	7・幕府代官吉田佐太郎によって鹿野戸村、羽計村、谷津村、今郡村、宮本村、新宿村、石出村などの検地行われる（今泉村も幕府代官谷儀右衛門によって同年三月、検地が行われたといわれる） 11・徳川家康、宮本村東大社に朱印地一〇石の朱印状与える
	文禄　元年	一五九二	2・武州埼玉郡忍城主の松平家忠、香取郡上代の領主となる
	三年	一五九四	11・小早川金吾秀秋の元家臣石河三右衛門勝政、今泉村などの領主となる 松平家忠、上代を転じて、香取郡のうち、上総国長柄・武射、山辺望陀のうち、および同国吉倉、平川両郷のうちに移され、香取郡小見川城を賜う
	慶長　七年	一六〇二	12・土井利勝、香取郡小見川の領主（一万石）となる
	九年	一六〇四	8・大友村、検地行われる
	十九年	一六一四	6・今泉村と石出村（天領）入会争論、乱闘となる、石出村二人死亡、今泉村は名主、年寄の二人が籠舎で死亡 8・神宝長刀「蛍丸」玉子大明神に寄進される
	元和　二年	一六一六	5・二代将軍徳川秀忠、石河家に今泉、鹿野戸、今郡、諸持、森戸の五か村領地の朱印状を与える
	三年	一六一七	須賀山村の「反別帳」により、同年、土井利勝が領主であることがわかる、慶長期
	七年	一六二一	

世代時	元和期	一六一五～
	寛永八年	一六三一
	八年	一六三一
	十年	一六三三
	十年	一六三三
	十年	一六三三
	十二年	一六三五
近江戸	十九年	一六四二
	二十一年	一六四四
	慶安二年	一六四九
	万治三年	一六六〇
	寛文四年	一六六四

から同村領主か、上代郷も同一か
羽計村の一部、旗本揖斐政景家の知行となる
2月土井利勝によって須賀山村および上代郷（大久保村、神田村、和田村、舟戸村、桜井村）など検地行われる
小沢家（新宿村領主か、寛永十年からは確実）の兄弟の激しい相続争いおこる、兄牛右衛門忠秋側勝つ、以後、明治まで同家が新宿村の領主となる
土井利勝、下総国佐倉をあらためられ、古河に移され一六万石余となる、この時、須賀山村、上代郷なども土井の支配ではなくなったものと思われる
旗本多田三八郎は、すでに羽計の領主になっている、元和期からか
羽計村の一部、旗本内藤長教家の知行となる
11・9旗本松平勝義家（のち同家は多古藩主となる）、小貝野村の領主となる
12・14旗本松平外記、同中根伝七郎、須賀山村の領主となる、同村はほかに天領分あり
5筒井忠重、上代四か村（一二〇〇石）、すなわち、神田村、和田村、舟戸村、桜井村の領主となる
6・「立野」をめぐって窪野谷村と小座村が争論、窪野谷村、江戸奉行所へ訴え出る
7・石出村と羽計村・谷津村野境争論、江戸の寺社奉行所・石出村の言い分認める
根本山をめぐり、羽計村と新宿村争論、裁許下りる
4・内田出羽守正衆（下野国鹿沼藩藩主、同家は後小見川藩主となる）の領知目録に、平山村、窪野谷村、高部村、青馬村、谷津村、宮本村、（下）桜井村、粟野村、小南村が記載されている、寛永十六年からの支配か

時代	和年号	西暦	主なできごと
世代	寛文　五年	一六六五	5・「さかたのはら」をめぐり、今泉村と諸持村（現銚子市）出入り、鹿野戸村、今郡村、森戸村が立ち合って和解、諸持側は同所に道を作らないことを確約
	十年	一六七〇	椿海新田工事完成、小南村下に夏目村成立、粟野村下に八重穂村成立、いずれも幕府領
	十一年	一六七一	～12・青馬村幕府領になる
	延宝　元年	一六七三	青馬村、旗本筒井内蔵家、同宮城三左衛門家、残りは幕府領の領知形態となる
	四年	一六七六	海上郡橘村の僧長賀、新宿村に秀蔵院建立（玉子大明神の神宮寺） 3・今郡村と石出村秣場入会争論、今泉村側、慶長十九年一件をあげて同村こそ地本であると幕府へ訴える
近江戸時			3・今泉村と宮原村（現銚子市）秣場入会争論
	天和　六年	一六七八	鉄牛禅師、小南村福聚寺を創建
	二年	一六八二	小南村など五か村、東森戸村前の割野を要求、認可さる
	三年	一六八三	筒井家、分家を創出。舟戸村の全部、和田村のほぼ半分が分家の領地となる
	貞享　二年	一六八五	6・宮本村から発する用水を今泉村が夜曳くのを諸持村は禁止したことはないと、同村が口上書を領主用人あてに出す
	元禄　八年	一六九五	3・椿海新田検地行われる
	十年	一六九七	7・旗本堀長郷、宮本村の領主となる 7・幕府領石出村、旗本天野三郎兵衛、同大岡仁右衛門の知行地となる 7・大久保村の一部、旗本山崎正純家の知行地となる、残りは幕府領と推定できる 7・羽計村、旗本兼松正寔（たね）家の知行となる

世代		
十一年	一六九八	～11・粟野村、旗本青木政央（ともひさ）家、旗本中川家、旗本杉田忠察家の知行となる、7・6旗本川口源左衛門、須賀山村の領主となる、その後、あるいは同時期、石河土佐守、石毛織部も同村領主となる
十二年	一六九九	青馬村の幕領部分は旗本佐野勝由家の知行となる、宮城分はいったん幕領となり、すぐ旗本山田家の知行となる
十四年	一七〇一	3・谷津村、旗本久世三之丞（内田出羽守正衆の四男）の知行となる 3・窪野谷村（鹿沼藩領）の一部、旗本久世三之丞、および旗本内田正長に分与される
時代		
宝永二年	一七〇五	10・羽計村の「天領私領大小惣百性」が同村兼松領名主の不正を理由に糾弾開始、同名主退役か（時期不明） 3・小南村の一部、旗本佐野勝由家の知行となる
正徳二年	一七一二	夏目村市郎右衛門と八重穂村源右衛門が中心となって訴訟をおこし椿海一八か村の検地帳所持を要求
三年	一七一三	3・元禄十四年一件の羽計村元名主反撃に出る、むほんを口実に同村村民たちを江戸奉行所へ訴える。評定所の裁決によって元名主敗訴
享保九年	一七二四	6・大友村と小座村争論、大友村、江戸奉行所へ訴え出る（粟野村から発する用水をめぐり）
近江		
十四年	一七二九	8・小座村と粟野村、用水溝往還出入り。幕府の裁決下りる 10・鹿沼藩主内田信濃守正偏、妻を傷けたため籠居せしめられる、子の正親三〇〇〇石を減封され、一万石となって小見川へ入封。小見川藩の成立
延享四年	一七四七	3・小南村の一部、旗本藪忠通の知行となる 3・小南村・粟野村・青馬村の三か村間での、字向台および字後野をめぐる争論おこる、幕府評定所の裁決下りる、署名者の一人に寺社奉行大岡越前守あり

時代	和年号	西暦	主なできごと
近世	宝暦 十三年	一七六三	5・夏目村の一部、旗本榊原政武の知行となる
	明和 四年	一七六七	7・大久保村の一部（幕府領か）、安中藩領となる、羽計村の一部も安中藩領となる
江戸時代	四年	一七六七	7・夏目村の残りの部分、安中藩（藩主板倉伊予）の領地となる、八重穂村（全部幕府領）、同じく安中藩の領分となる
	安永 三年	一七七四	11・和田村・神田村・桜井村の惣百姓らが地頭筒井家の用人らを、非法を理由に訴える、用人ら追放
	天明 三年	一七八三	8・根本山をめぐり、羽計村と新宿村の争論について幕府評定所の裁許下りる、羽計村の主張ほぼ通る 天明二年の六分作そして、天明三年の浅間山噴火・天候不順による大凶作のため大飢饉となる
	寛政 二年	一七九〇	11・和田村、神田村の百姓大勢が名主跡役任命に不満で、江戸地頭屋敷へ門訴
	享和 元年	一八〇一	2・玉子大明神社火災、古文書類焼失（神私実事）
	文化 二年	一八〇五	6・関東取締出役設置
	七年	一八一〇	10・小林一茶、小南の青野太筋宅を訪れる（七番日記）
	十三年	一八一六	5・国学者平田篤胤、笹川河岸に来る、須賀山村多田庄兵衛、同高橋正雄、諏訪神社神主五十嵐左京光通ら入門
	文政 十四年	一八一七	6・小林一茶、小南を再訪（七番日記）
	二年	一八一九	12・多田庄兵衛、屋代弘賢（国学者・幕府右筆）へ筆法修得のため入門
	三年	一八二〇	2・平田篤胤「古道大元顕幽分属図説」を多田庄兵衛に贈る
	十年	一八二七	6・常州太田新田と須賀山村・新宿村・石出村・今泉村・宮原村との間で川境い

世代			
近世江戸時代	天保	五年	一八三四	きめる
		七年	一八三六	4・大原幽学、小南村青野氏宅を訪れる（道の記） 10・諸持村小前たちが江戸の領主屋敷へ年貢減免の押願をしようとして、今郡村・鹿野戸村・今泉村・須賀山村の名主たちに止められる
		九年	一八三八	窪野谷村の小見川藩領分は老中水野越前守忠邦の領地となる、平山村も水野越前守の領地となる（弘化二年まで）
		十五年	一八四四	8・飯岡の助五郎側と笹川の繁蔵側との間で、いわゆる大利根河原の決闘、浪人平田深喜斬死
	弘化	四年	一八四七	7・笹川の繁蔵、須賀山村ビヤク橋付近で闇討ちになる
	嘉永	二年	一八四九	4・小南村金比羅山で勢力富五郎（佐助）自殺
		三年	一八五〇	小貝野村、幕府領となる
	元治	元年	一八六四	3・水戸藩の急進尊攘派天狗党、筑波に挙兵 8・水戸浪人ら今泉村、鹿野戸村、須賀山村へ献金を要求、各村献金 9・須賀山村字西之内で浪人瀬谷貞介召捕、打首となる、同所に埋めらる 安中藩々士二人（天狗討伐軍）、笹川河岸近くで村民一人を斬ったため、村民らに殺される
	慶応	二年	一八六六	6・石出村村民、寺院に集まり、村役人に米穀を要求、村役人の説得、旬余に及ぶ 10・今郡村、つよく年貢減免を要求
		三年	一八六七	1・今泉村小前一同、同村金昆羅山に集まり、法羅貝・竹貝を吹き、一五〇俵の夫食を村役人に要求 3・石出村村民、寺院に集合、慶応二年のごとく、なかなか集結解けず、村役人側、夫食四〇俵を出す
		四年	一八六八	3・14五ヵ条の誓文

時代	和年号	西暦	主なできごと
近世			3・28　神仏分離令が発令
江戸時代			4・江戸城明け渡し
			6・今泉村観音寺に浪士一人あらわれ、同村若者らに殺される
			7・江戸を東京と改称
近代	明治		9・8明治改元
明治時代	元年	一八六八	10・（明治元年）三名の者、今泉村名主などを息栖村浅田屋につれ去り、金一〇〇両をうばい取る
	二年	一八六九	2・9宮谷県となる
	三年	一八七〇	庶民の苗字許される
			義倉穀、出穀おこなわれる
			須賀山村地先附寄洲の大縄反別改おこなわれる
			9・附寄洲上知となる
	四年	一八七一	7・14廃藩置県となる
			3・須賀山村字新切に開墾局出張所が設けらる
			4・戸長、副戸長を置くことが布達される
			11・府県の統合がおこなわれ、新治県が誕生
			寺請制度廃止される
	五年	一八七二	2・田畑売買の自由を認める
			2・戸籍法が実施される
			大区小区制が設けられる
			貢租の金納が認められる

近代		
明治時代		
六年	一八七三	8・3学制が発布される 11・9太陽暦に改められる 1・10徴兵令が発布される 4・郵便料金均一になる。切手発行 6・15木更津県と印旛県が合併して千葉県となる 7・28地租改正が公布される 須賀山地先附寄洲開墾地が東京府の毛利定次郎・武本吉介に払下げられる
七年	一八七四	「地理編輯取調」を新治県に提出 石出・須賀山・窪谷の各小学校が発足する 大久保学校発足する
八年	一八七五	3・各村より「産物取調書」が提出される 5・7新治県が廃され、香取・匝瑳・海上の三郡は千葉県に編入される
九年	一八七六	10・16萬歳郵便局開設される 羽計村吉祥院に興成小学校発足（後、東小学校と改称）
十年	一八七七	西南の役おこる。辺田冨造・保立冨吉戦死
十一年	一八七八	7・22郡区町村編制法公布、聯合村戸長役場設置 11・佐原に郡役所が置かれる
十三年	一八八〇	4・附寄洲開墾地の地元への払下げ問題起る 4・16須賀山郵便取扱所開設
十四年	一八八一	区町村会法が定められる 12・18好問社設立
十五年	一八八二	3・15自由党下総地方部結成、東庄地域より一八名参加する 8・附寄洲開墾地払下げられる

時代	和年号	西暦	主なできごと
近代	明治十六年	一八八三	コレラが発生する
	十七年	一八八四	附寄洲開墾地外の寄洲は御料地となる 東和田外四か村で窮民の医療救護をきめる
明治時代	十八年	一八八五	5・戸長は官選になり議長を兼ねる 8・戸長役場の管理区域を拡大する 3・後野、向台の開墾に着手（二十年完了）
	二十年	一八八七	3・20小南に巡査駐在所設置する 東小学校を羽計字深田に設立 小南・夏目小学校を合併して城山小学校設置する 石出小学校を石出一五九五に開設する
	二十二年	一八八九	帝国憲法発布 2・神代村巡査駐在所大久保に設置する 3・土地台帳規則が公布される 4・1町村制施行され、笹川・神代・東城・橋の各村誕生する 『非政論』第一号発行される 徴兵令の免役規定無くなる 教育勅語発布される
	二十三年	一八九〇	5・府県制・郡制が制定される 6・18利根運河竣工する 7・1第一回衆議員選挙おこなわれる 城山小学校再度小南・夏目の二校に分れる

近代		
明治時代		
二十四年	一八九一	6・16『文教』が発行される
二十六年	一八九三	11・実業補習学校規定公布
		11・佐原区裁判所東城出張所を小南に設置する
二十七年	一八九四	8・1日清戦争始まる
二十八年	一八九五	千葉県に公設消防が発足する
		3・附寄洲（御料地）の、地元の側による分割小作が認められる
二十九年	一八九六	6・26東城村農会設置認可される
		7・21笹川村農会設置認可される
		利根川浚渫問題の準備のため「同盟」が作られる
		東京吾妻橋――銚子間の吾妻鉄道建設計画が申請される。実現せず幻の計画となる
三十一年	一八九八	神代小学校落成し、窪谷小学校と上代小学校が合併。神代小学校が成立
三十二年	一八九九	農会法が公布される
		3・北総銀行笹川支店が設立される
		利根川第一期改修工事を笹川「羽右衛門打切」より着工
		8・20小貝野に伝染病隔離病舎が建設される。他の村も相前後して建設
		9・下利根橋漁業組合設立
三十五年	一九〇二	国定教科書の制度が発せられる
三十六年	一九〇三	6・10日露戦争始まる
三十七年	一九〇四	3・小学校修業年限六年となる。義務教育六年制
四十年	一九〇七	8・1笹川村が笹川町と改称
		東庄地域各町村に青年支団発足する
四十二年	一九〇九	官有地（元旗本の御林か）坊内原が笹川町に払下げられる

時代	和年号	西暦	主なできごと
近代			
明治時代	明治四十三年	一九一〇	東和田の一部耕地整理行わる
	四十四年	一九一一	各町村に消防組が組織される（東城村は四十四年） 2・笹川町外二か村耕地整理着工 3・1神代良文第一耕地整理着工 3・神代信用購買販売組合設立 10・神代村八木山協同救護会設立 11・橘村今郡信用購買販売組合設立 4・橘村青馬信用購買販売生産組合設立
	四十五年	一九一二	明治天皇崩御
大正時代	大正元年	一九一二	12・東京で憲政擁護会第一回大会開かる 2・護憲運動群衆暴動化する、大正政変
	二年	一九一三	町内各地域に地主会の誕生をみる 4・米穀検査所設置さる（大正十二年改正） 5・22橘小学校でトラホームの治療を行う
	三年	一九一四	6・1神代小学校児童生徒による苗代の害虫駆除行わる 8・23ドイツに宣戦布告（第一次世界大戦に参戦） 11・神代村で青島陥落祝勝会行わる
	四年	一九一五	1・17神代小学校に図書館の設置をみる 5・中国に対して二一か条の要求をする 5・4神代村婦人会総会開かる（六年に笹川町、七年に東城村、十年に橘村） 11・神代・良文第一組合（耕地整理）工事完了

近代	五年	一九一六	2・18石出小学校校友会結成（同年に笹川小学校、六年に橘小学校同窓会）
	六年	一九一七	5・神代村処女会発会（八年に東城村、笹川町）
			12・笹川町外二か村耕地整理組合工事完了
	七年	一九一八	1・橘村北部耕地整理組合工事完了
			3・16神代村教育会発足（十四年笹川町・十六年橘村）
			8・富山県に米騒動起る、千葉県内各地に広がる
			11・スペイン風邪（流行性感冒）流行し、笹川・橘・東城の小学校休校する
			12・笹川農業補習学校設立（八年に神代・橘・東城設立）
大正時代	八年	一九一九	3・小学校令施行規則改正され、日本歴史・地理・理科の指導強化さる
			6・笹川町坊内原開墾成功し町民に貸付ける、一部は笹川小学校基本財産となる
	九年	一九二〇	4・千葉師範学校附属小学校で自由教育開始（主事手塚岸衛）
			4・佐原・松岸間の鉄道（佐松線）延長運動起る
	十一年	一九二二	4・香海鉄道（佐松線）鉄道敷設法予定線となる
			4・東城村青年団設立
			11・笹川小学校に記念図書館落成（後笹川町図書館となる）
			笹川町石井自動車部に乗用自動車（ハイヤー）営業始まる
			林自動車商会もこのころ営業開始
	十二年	一九二三	2・笹川町に特設電話開設する
			道路笹川飯岡線、県道に編入さる
			4・香取郡東部町村聯合小見川農学校発足する
			9・1関東大震災起る、房州方面被害甚大
			9・7戒厳令発令さる
	十三年	一九二四	笹川町に利根販売購買利用組合（繭市場）設立

時代	和年号	西暦	主なできごと
近代			
大正時代	大正十四年	一九二五	3・千葉県令、自作農奨励資金借付規則公布 8・笹川小学校で東部聯合青年団発団式行わる 10・御料地（沖寄洲）払下げ成り、耕地整理開始
	十五年	一九二六	2・手塚岸衛が笹川教育会で講演、翌日学習研究会を指導 4・中学校・師範学校に軍事教練を実施 郡制廃止により郡役所は県の出先機関となる 4・青年訓練所令および規程公布 7・橘・石出・笹川・東城青年訓練所開設
昭和時代	昭和二年	一九二七	3・震災手形処理をめぐって金融恐慌起る 5・笹川小学校でアメリカ人形歓迎お伽会開かる 東城村に荷用自動車（トラック）入る 10・普通選挙法講演会が笹川小学校で開かる 笹川町石井自動車部、笹川～神代村大久保間に乗合自動車の営業を開始
	三年	一九二八	5・佐松線工事測量開始
	四年	一九二九	1・笹川町沖ノ洲耕地整理組合設立（昭和十二年竣工） 7・社会教育局が発足し、社会教育制度改めらる（青年訓練所） 7・浜口内閣の緊縮政策実施される 10・世界恐慌拡大し、農村不況深刻化する
	五年	一九三〇	7・笹川小学校で国産品奨励講演会開かる
	六年	一九三一	9・18満州事変起る 11・成田鉄道、佐原～笹川間開通

近代	昭和 七年	一九三二	農村匡救事業始まる、千葉市で農村経済更生座談会開かる、笹川町長五十嵐荘太郎出席
昭和時代	八年	一九三三	5・15五・一五事件起る
	九年	一九三四	3・成田鉄道、笹川～松岸間開通（佐松線全通） 1・千葉県農村更生期成同盟主催、千葉県民大会開かる、香取郡農会長石毛嘉一郎（笹川町）出席する 千葉県産業伸展標準出る（産業五か年計画） 7・17大利根引水事業への反対運動起る
	十年	一九三五	9・橘村国防婦人会発会 6・青年学校開設（兵式教練実施）
	十一年	一九三六	2・16大利根用水笹川機場鍬入式
	十二年	一九三七	2・26二・二六事件起る 5・26文部省「国体本義」を出す 7・7日中戦争（日支事変）起る
	十三年	一九三八	4・1国家総動員法発令される
	十四年	一九三九	4・1国民健康保険法公布（七月一日施行）される 10・26笹川・森山耕地整理組合設立 8・千葉県『常会の営み方』県内町村に配布 10・18価格等統制令公布
	十五年	一九四〇	8・千葉県民戦時生活実践要項実施 10・12大政翼賛会発足
	十六年	一九四一	4・1国民学校令公布され、小学校は国民学校と改称 12・8アメリカ・イギリス等に宣戦布告（太平洋戦争）

時代	和年号	西暦	主なできごと
近代	昭和十七年	一九四二	4・18米軍機初来襲
	十九年	一九四四	8・12東京都本所緑町国民学校児童疎開（神代・橘・東城各村） 12・3神代村にB29一機墜落
現代	二十年	一九四五	2・24笹川小学校へ第五二軍護沢部隊橋本隊が、神代小学校へ桜隊、東城小学校へ二二六〇部隊、石出・橘小学校へ軍隊駐屯 5・27東大神にて橘村国民義勇隊結成式挙行 6・26沖縄玉砕の報伝わる 7・神代・橘などの住民、米軍の本土上陸にそなえ山梨県へ疎開の計画おこる 8・6・5広島・長崎に原爆投下さる 8・14日本ポツダム宣言受諾、十五日終戦の詔勅放送さる 9・連合国日本に進駐を開始する 11・食糧不足のため東京方面よりの買い出しが本町に来るようになる 12・GHQ農地改革を指令
昭和時代	昭和二十一年	一九四六	1・GHQ公職追放を指令、本町でも各町村の首長、追放を受ける 2・第一次農地改革を実施、日本農民組合結成される 3・物価統制令出る 10・第二次農地改革諸法令公布旧地主・小作人間の問題難行 11・日本国憲法公布
	二十二年	一九四七	7・全国農民組合結成
	二十五年	一九五〇	朝鮮戦争おこる 7・千葉県知事川口為之助水害状況視察のため笹川に来町町代表利根川治水対策

時代	年	
現代		を要請
		11・千葉県教育委員（公選）の選挙
		12・東大助教授宮原誠一、笹川中学にて「徳育について」講演
		12・千葉県知事選　柴田等当選
		12・笹川町と神代村の合併問題おこり、二町村では意義少なく四～五町村で合併ときまる
昭和二十六年	一九五一	1・15笹川町ではじめて町単位の成人式挙行、男女五〇名ほど参加
		1・笹川町代表千葉県庁に柴田知事を訪問、利根川治水工事の早期実施を求む
		6・笹川町自治体警察署存廃問題おこる
		9・笹川町自治体警察署解散式を挙行
二十七年	一九五二	1・笹川港の開港式挙行
		6・笹川町図書館開館
二十八年	一九五三	6・7町村合併の問題について代表協議
		2・県教育庁社会教育課・笹川町青年学級の活動を主体とした映画「雲の下の葺」を作る
三十年	一九五五	7・東庄町誕生、面積四七・一六平方キロ、人口一万八六三一人、町長職務執行者羽計晟（合併町村笹川町・橘村・神代村・東城村の一町三村）
		8・東庄町長選挙、羽計晟町長当選
		10・町議会議員定数変更（合併による）定数二五名となる
		11・町議会議員選挙
		12・東庄町役場の課設置条令制定、総務課・税務課・福祉課・産業課設置
昭和		1・農業委員会委員選挙、定数は一五人
		3・当町の大字桜井・夏目の分離・境界変更問題おこり、住民投票実施
三十一年	一九五六	

時代	和年号	西暦	主なできごと
現代	昭和三十二年	一九五七	4・当町の大字桜井が干潟町に編入、面積一・五平方キロ、人口三二一人 9・町営と畜場増改築・町長羽計晟退職 10・新町長に向後省三当選就任 4・前年に引き続き県教委より指定をうけて、社会教育の実践研究を続ける 5・利根川沿岸の本町周辺の町村塩害問題おこる 8・神代地区の新生活運動が千葉県政ニュースとして現地撮影がおこなわれる 9・東庄町社会教育生活学習テキスト「田園の歌」第一号刊行 11・東庄町有線放送電話業務開始 12・粟野・小座地区簡易水道設置、給水戸数六三戸、事務費二二四万円 5・東庄・小見川はじめ香取・海上郡の町村に塩害がひろがる 6・笹川幼稚園開設、三学級 7・石出小学校増改築 9・敬老年金条例制定、八十歳以上年額一〇〇〇円支給 12・神代中学校校舎増改築
昭和時代	三十三年	一九五八	
	三十四年	一九五九	5・石出小学校給食施設整備、給食室六六平方メートル、七九万円 11・東庄町役場各地区出張所全部廃止、福祉年金制度発足 12・笹川中学校校舎増改築
	三十五年	一九六〇	10・拠出金制度発足 10・向後省三町長に当選、就任 12・一九六〇年世界農林業センサス事務優良として農林大臣より表彰される
	三十六年	一九六一	2・仲内地区簡易水道設置、給水戸数五六戸

現代	昭和三十七年	一九六二
	3・東城中学校校舎増改築、神代中学校校舎増改築	
	10・町営甘しょ貯蔵庫新築、二棟九九平方メートル	
	12・千葉県視聴覚教育研究大会、東庄町笹川小・神代中・笹川中会場	
	3・小見川町外二か町村清掃組合の手で、し尿処理場完成	
	3・共同養鶏舎新築、建物八棟、四一〇平方メートル	
	共同豚舎新築、建物四棟、八三九平方メートル（新農村建設計画）	
	4・東城小学校給食施設設備を整備、給食室七九平方メートル	
	4・橘小学校給食施設を整備、給食室七三平方メートル	
	11・夏目地区簡易水道設置、給水戸数一四一戸、六二八万円	
	12・町営病院施設を増改築	
	三十八年	一九六三
	1・東庄町役場に住民室が設置される	
	2・橘中学校講堂新築、三五一万円	
	8・神代小・中学校、笹川小・中学校共同プール建設される	
	12・住民登録実態調査実施	
	12・中央支所に有線放送所施設新築、四二五万円	
	1・中央支所業務開始	
	三十九年	一九六四
	1・有線放送電話施設設置、二〇〇回線、加入戸数二〇七二戸	
	2・有線放送電話業務開始	
	4・消防団支団制廃止、三三分団を一三分団に統合	
	4・石出小学校屋内運動場新築、六二〇万円	
	4・東城幼稚園開設、二学級	
	7・東城小・中学校共用プール建設、四〇九万三〇〇〇円	
	10・神代簡易郵便局、町農協へ移管	

時代	和年号	西暦	主なできごと
現代			10・向後省三町長に当選
			12・東町青年館設置、木造平家八三平方メートル、一二五万円
			12・青馬青年館設置、木造平家一〇四平方メートル、一六五万円
			12・夏目児童館設置、木造平家一九一平方メートル、三〇〇万円
昭和	昭和四十年	一九六五	1・東庄町役場に企画室設置される
			2・諏訪神社境内に児童遊園地を設置
			4・役場の位置を定める条例を改正（笹川い五七九番地の一に変更）
			4・神代幼稚園舎新築、橘幼稚園を開設、石出幼稚園を開設
			6・有線放送電話、公社線との接続業務を開始する
			11・利根川河口堰本体工事起工式が挙行される（水資源開発公団）
			12・東庄町役場庁舎新築、鉄筋二階建一・〇二一平方メートル、三二六万三〇〇〇円、合併記念、庁舎竣工式を挙行する
			12・新庁舎での業務を開始
	四十一年	一九六六	12・町長選挙で向後彰が当選
			12・東庄町町章きまる、入選者石出・保立郁雄
	四十二年	一九六七	10・小見川町外二町消防組合発足
			12・東庄町都市計画区域の変更を建設大臣に申請
	四十三年	一九六八	5・県政懇談会が石出小で開催、友納知事来町
	四十四年	一九六九	11・黒部川水門改築はじまる（四六年三月完成予定）
	四十五年	一九七〇	米の生産調整がはじまる
			4・鉄牛画像、千葉県指定文化財となる
			4・東大社、二〇年に一度の銚子外川御神幸を執行

代	昭和四十六年	一九七一
和	四十七年	一九七二
現	四十八年	一九七三
昭	四十九年	一九七四
	五十年	一九七五
	五十一年	一九七六

12・四八年千葉国体にむけ、郷土緑化運動のひとつとして町民より町の木「オオムラサキ」にきまる
12・東庄町長に野口勘司当選
2・夏目西青年館完成　二五〇万円
3・利根川河口堰完成
5・羽計地区に住友金属の住宅団地造成が開始された
5・東城小学校改築工事完成　鉄筋二階建
7・ゴミ処理事業開始
9・香取広域市町村圏を決定行政の広域化をはかる
9・台風二八号襲来、本町でも死者四人その他多くの被害あり
10・四十六年度第五回町議会（臨時）東庄町基本構想を可決
1・東庄農協において東総用水事業の説明会を実施
2・東庄町図書館創立五〇周年、公民館開設二〇周年を記念して、社会教育振興大会開催、会場石出小学校、参加者六〇〇名
3・東庄町公害防止条例可決、役場三階に大気汚染自動測定装置が設置される
4・東庄町内の中学校が形式統合を実施、初代校長に久保木茂雄就任
10・安定した農業経営をめざした東庄町土地利用計画（原案）まとまる
4・東庄町立統合中学校校舎完成、入学式挙行
11・北総三線（総武・成田・鹿島）電化完成、銚子で開通式挙行する
2・電々公社東庄南局「七」が開局
4・小見川警察署東庄警察官幹部派出所完成
7・合併二〇周年記念式挙行
3・第九回千葉県特産農業集団共進会で、粟野・小南落花生・甘しょ栽培組合が

時代	和年号	西暦	主なできごと
現代			農林大臣賞を受賞する
昭和	五十二年	一九七七	5・東庄町史刊行のための委員会が発足する
			6・有線放送電話が九月三〇日で廃止と議会で決定
			5・諏訪神社の「笹川神楽」県指定無形文化財となる
			7・町立・小中学校の宿日直制度を廃止し学校無人化を推進
			12・町内年能（野口俊男所有地内）で、箱式石棺が出土
	五十三年	一九七八	12・笹川漁業センター完成
			4・橘小学校新校舎完成
			7・東総用水工事（部分的に）開始される
			12・町長選挙で向後彰が当選
	五十四年	一九七九	5・東庄町小南に東庄県民の森がオープンする
			7・東庄役場を親局とした広報無線の放送はじまる
	五十五年	一九八〇	4・東庄町基本構想が改訂されて、あたらしい基本方針の検討はじまる
	五十六年	一九八一	10・東庄町基本構想・基本計画「豊かでふれあいのある文化のまち東庄をめざして」が策定され、三か年実施計画が策定される

戦没者名一覧表

戦役名	陸海軍別	階級	戦没者氏名	住所	戦没年月日	戦没の場所
日華事変	陸軍	伍長	伊藤　実	笹川い(菰敷)四、七三三	昭和一四・三・三	中支・修水中国野戦病院
第二次大戦	〃	一等兵	柳瀬　由松	〃(〃)四、七三	〃一八・五・五	東京大倉陸軍病院
〃	海軍	上等水兵	高安　七五三	〃(〃)四、七一九	〃一九・二・九	マーシャル群島
〃	陸軍	兵長	磯山　良助	〃(〃)四、七一四	〃一九・三・八	ニューグル島ラバウル兵站病院
〃	海軍	上等整備兵	伊藤　弥三郎	〃(〃)四、七一四	〃一九・八・二	南方洋上・テニアン
〃	陸軍	兵長	高安　佐太郎	〃(〃)四、七一九	〃一九・八・八	中華民国中国野戦病院
〃	海軍	准尉	岩瀬　軍次	〃(〃)四、七五七	〃一九・九・三〇	グアム島
〃	〃	二等兵曹	菅谷　良二	〃(〃)四、七一九	〃一九・一〇・三	フィリピン沖
〃	陸軍	水兵長	石毛　嘉次	笹川ろ(〃)一、二四八	〃一九・一一・一九	フィリピン方面
〃	陸軍	上等兵	松本　元吉	笹川い(〃)四、七一四	〃一九・一一・二一	ニューギニア
〃	海軍	上等兵曹	磯山　亮太郎	〃(〃)四、七六四	〃一九・一一・三	東支那海
〃	陸軍	上等兵	土屋　秋平	〃(〃)四、七二四	〃一九・一一・三〇	南支方面
〃	〃	兵長	鈴木　栄	〃(〃)四、八八一	〃一九・一二・二八	中支・湖南省・中国療養所
〃	海軍	水兵長	勝野　惣之助	〃(〃)四、七一八	〃二〇・一・五	比島南方洋上
〃	陸軍	上等兵	森　保	〃(〃)四、七一九	〃二〇・一・九	中国兵站病院
〃	〃	兵長	土屋　専八	〃(〃)四、七二四	〃二〇・四・一	フィリピン・ルソン島
〃	〃	伍長	石毛　富蔵	〃(〃)四、七二四	〃二〇・五・一三	ニューギニア
〃	〃	伍長	多部田　仙造	〃(〃)四、七一九	〃二〇・七・一	フィリピン・レイテ島
〃	〃	上等兵	前田　正太郎	〃(〃)四・七二一―二	〃二〇・八・三〇	中国兵站病院

戦役名	陸海軍別	階級	戦没者氏名	住所	戦没年月日	戦没の場所
第二次大戦	陸軍	兵長	鎌形武雄	笹川い(菰敷)四、七九	昭和二〇・九・三	南支
〃	〃	上等兵	越川喜太郎	〃(〃)四、七四	〃二〇・一〇・一九	中支・漢口
〃	〃	兵長	越川良之助	〃(〃)四、七一	〃二〇・一〇・二	中華民国・山東省鄒県白馬廠
〃	海軍	上等水兵	多部田子之助	〃(〃)四、七三〜二四二	〃二〇・	湯ケ原病院
〃	陸軍	兵長	磯山政司	〃(〃)四、七六四	〃二一・五・六	久里浜陸軍病院
〃	〃	兵長	寺島忠雄	〃(〃)四、七七九	〃二一・九・九	北朝鮮
〃	〃	上等兵	越川啓治	〃(〃)四、七八一(転出)		朝鮮海峡
日露戦争	〃	上等兵	林留吉	〃(新田)一、七五九	明治三八・三・八	満洲唐家屯
満洲事変	〃	伍長	根本荘太郎	〃(〃)一、八〇八	昭和一〇・八・二七	満洲・海城衛戍病院
日華事変	〃	伍長	越川源次郎	〃(〃)一、八〇一	〃一二・一〇・一〇	中国江南王宅附近
第二次大戦	〃	兵長	横田耕三	〃(〃)一、九四八	〃一八・三・一一	ビルマ国・ボンナギャウン県セヤトビン
〃	〃	曹長	青柳廣	〃(〃)九三九	〃一八・六・八	北支・河北省撫寧県後官地附近
〃	〃	伍長	高橋武夫	〃(〃)一、九〇二	〃一九・六・一〇	東部ニューギニヤ・ウエック島
〃	海軍	水兵長	平野熊吉	〃(〃)一、七五八	〃一九・七・一七	フィリピン
〃	陸軍	兵長	山本歳雄	〃(〃)一、九四九	〃一九・八・二五	中国野戦病院
〃	〃	兵長	川島廣治	〃(〃)一、九〇三	〃一九・九・一五	西部ニューギニア・サンサポール
〃	海軍	上等兵曹	林明	〃(〃)一、八三七	〃一九・一〇・二五	フィリピン・レイテ島
〃	陸軍	伍長	箕輪敏彦	〃(〃)一、九三三	〃一九・一一・一五	レイテ島・リモン
〃	〃	兵長	大坂清	〃(〃)四、七一四	〃一九・一一・一七	フィリピン
〃	〃	兵長	高橋正次	〃(〃)四、七一四	〃一九・八・二	北支・湖南省醴陵県第二十七師団第四野戦病院
〃	海軍	上等水兵	平野良平	〃(〃)一、七五八	〃二〇・四・二四	フィリピン・ポナツポ山西北

〃	陸軍	曹長	林　唯	〃（〃）一、八三七	〃二〇・五・二五	沖縄本島・有里
〃	〃	兵長	長谷川　寛司	〃（〃）四、七二五	〃二〇・八・九	北支・山東省
〃	〃	伍長	川嶋　哲夫	〃（〃）一、九四一	〃二〇・三・二一	中華民国黒河省
〃	〃	上等兵	高橋　有信	〃（東浜）六五四	〃一八・三・五	中支
〃	海軍	水兵長	林　昇	〃（〃）六四四	〃二〇・五・一〇	フィリピン・マニラ
〃	陸軍	伍長	林　秀松	〃（〃）六五三	〃二〇・七・三	西部ニューギニア
〃	〃	兵長	浅羽　政雄	〃（〃）六三四	〃二〇・八・二〇	スマトラ・ハルマヘラ
〃	〃	兵長	林　鷹司	〃（〃）六二七	〃二〇・九・二〇	広東
〃	海軍	二等兵曹	林　朝治郎	〃（西浜）六二五	〃一九・一〇・二五	フィリピン・レイテ島
〃	陸軍	兵長	石毛　武雄	〃（〃）五、五〇〇	〃一九・一〇・二六	満洲
〃	〃	上等兵	岩田　幸七	〃（〃）五、五〇二	〃一九・二・二三	ニューギニア島・マボック方面
〃	海軍	軍属	石毛　大作	〃（〃）六〇二	〃二〇・二・二八	フィリピン・マニラ
〃	〃	兵曹長	土屋　正男	〃（〃）六〇七	〃二〇・七・二	佐世保湾上空
〃	〃	上等水兵	山本　太郎	〃（宿浜）	〃一九・一・二三	ニューギニア方面
〃	陸軍	二等兵	岩瀬　正春	〃（〃）五、五五〇	〃一九・二・二	中華民国斉寧附近
〃	海軍	上等水兵	石井　利次郎	〃（〃）六六一	〃一九・六・一	南海方面・パラオ島
〃	〃	水兵長	石津　幸太郎	〃（〃）五、五〇〇	〃一九・一・三	東京都
〃	陸軍	伍長	高橋　英之助	〃（〃）六五六	〃一九・二・二五	ビルマ
〃	〃	伍長	川島　仲	〃（〃）六四八	〃二〇・二・八	フィリピン・マサキナ島
〃	〃	上等兵	林　勝雄	〃（〃）六六二	〃二〇・二・一	北支
〃	〃	軍曹	高橋　庄之助	〃（〃）六五六	〃二三・五・二八	沖縄
〃	〃	大尉	小山　昇三	〃（〃）五八八	〃二〇・七・一〇	フィリピン・イラーク西方地区
〃	〃	兵長	森田　巳之助	〃（〃）五、四八八		フィリピン
〃	〃	伍長	高橋　進	〃（〃）五、四七五	昭和五・九・二	北支・河南省
〃	海軍	兵曹長	林　巨樹	〃（〃）五、五九九	〃一六・六・三	南洋群島クサイ島西方

戦役名	陸海軍別	階級	戦没者氏名	住所	戦没年月日	戦没の場所
第二次大戦	海軍	水兵長	岩井豊司	笹川い(宿浜)五、四三二	昭和一九・二・一七	南方海上
〃	陸軍	兵長	林郭雄	〃(〃)五、五五二	〃一九・四・二六	フィリピン洋上
〃	〃	伍長	山本佐一	〃(〃)五、五五〇	〃一九・八・二八	ニューギニア
〃	〃	兵長	岩井朝光	〃(〃)五、四三二	〃一九・一〇・一六	ニューギニア
〃	海軍	兵長	大木義雄	〃(〃)五、五五三	〃二〇・一・一九	フィリピン・マニラ沖
〃	陸軍	伍長	嶋田三郎	〃(〃)五、六三〇	〃二〇・二・一	ニューギニア
〃	海軍	軍属	柏熊英雄	〃(〃)五、四七九	〃二〇・三・一七	硫黄島
〃	陸軍	兵長	岩井政治	〃(〃)五、五一三	〃二〇・六・一三	フィリピン・ルソン島
〃	海軍	兵曹長	柏熊長次郎	〃(〃)五、四七九	〃二〇・七・九	フィリピン群島
〃	陸軍	兵長	林忠雄	〃(〃)五、四四四	〃二〇・八・二三	中支
日露戦争(徴兵中)	〃	輜重輸卒	向後重二	〃(大木戸)五、五五三	明治三八・一〇・三三	従軍中発病・帰療中死亡
〃	〃	二等兵	向後金太郎	〃(〃)五、五五三	大正九・二・二五	佐倉衛戍病院
第二次大戦	〃	兵長	高木定二	〃(〃)五七五	昭和一七・二・一	マレー半島
〃	海軍	二等水兵	藤ヶ崎喜之助	〃(〃)六九九	〃一七・一〇・一〇	伊豆(海軍病院)
〃	〃	上等兵曹	鈴木章三	〃(〃)五、五七〇	〃一八・六・二	アリューシャン列島方面
〃	陸軍	上等兵	向後清治	〃(〃)	〃一八・九・二九	北支
〃	海軍	一等兵曹	岩瀬幸太郎	〃(〃)四、六八三	〃一九・一・二四	南西諸島海域
〃	〃	軍属	土屋辰造	〃(〃)七二四	〃一九・五・二	外南洋
〃	〃	伍長	鈴木政次郎	〃(〃)五、五七〇	〃一九・五・一七	グァム島西北方海上
〃	陸軍	伍長	高橋武夫	〃(〃)七四三	〃一九・六・一〇	ニューギニアウエック
〃	〃	兵長	林秀司	〃(〃)五、五五〇	〃一九・六・一〇	ニューギニアトム
〃	海軍	一等兵曹	千葉仙太郎	〃(〃)四、七二三	〃一九・六・二三	南洋群島
〃	〃	二等兵曹	七五三栄司	〃(〃)七一七	〃一九・六・一九	中部太平洋

〃	陸軍	准尉	五十嵐規矩雄	〃（一八九六）	〃・一〇・一〇	フィリピン
〃	〃	伍長	五十嵐慎一郎	〃（四七二四）	〃・一一・一〇	フィリピン・レイテ島
〃	海軍	二等兵曹	多田　栄次郎	〃（六七六）	〃・一一・二五	フィリピン方面
〃	陸軍	上等兵	多田　松寿	〃（六七六）	〃・一二・三	広島陸軍病院
〃	〃	兵長	高橋　正男	〃（六二八）	〃・一二・八	中支・無錫兵站病院
〃	海軍	上等水兵	青柳　秀三	〃（五五六七）	〃・一九・一	
〃	〃	軍属	小野寺　秀	〃（一八四二）	〃・一九・一二・三〇	ニューブリテン島ラバウル
〃	陸軍	兵長	大網　昇	〃（四七二四）	〃・二〇・一・一〇	ニューギニア方面
〃	〃	上等兵	高木　正	〃（二〇〇六）	〃・二〇・二・六	中支・冷水舗第八十二兵站病院
〃	〃	伍長	大網　平太郎	〃（五五六）	〃・二〇・二・二六	ニューギニア
〃	〃	伍長	山野辺　弘	〃（五六二一）	〃・二〇・三・一	ビルマ方面
〃	〃	伍長	五十嵐　達二	〃（六七九）	〃・二〇・三・二	ビルマ
〃	海軍	上等水兵	高木　英吉	〃（五七五）	〃・二〇・三・一七	硫黄島
〃	陸軍	上等兵	坪山　雄之助	〃（五六七）	〃・二〇・三・一七	硫黄島
〃	海軍	少佐	土屋　大作	〃（五五〇）	〃・二〇・四・六	南西諸島
〃	陸軍	伍長	宮内　清	〃（五五〇）	〃・二〇・五・一三	鹿児島県菊地郡泗水村
〃	海軍	二等兵曹	平塚　芳藏	〃（一四二）	〃・二〇・五・三一	ミンダナオ島
〃	陸軍	兵長	宇井　定治	〃（六九四）	〃・二〇・六・四	国立千葉療養所
〃	〃	伍長	永塚　香	〃（五四九）	〃・二〇・七・一四	ビルマ
〃	〃	兵長	宮内　宗康	〃（五五〇）	〃・二〇・七・二五	ルソン島
〃	〃	兵長	大網　義夫	〃（五六七）	〃・二〇・七・二八	フィリピン・ミンダナオ島
〃	〃	兵長	大網　佐兵衛	〃（六六四）	〃・二〇・七・三〇	ニューギニア
〃	海軍	一等水兵	箕輪　政治	〃（六六九―二）	〃・二〇・七・二四	愛知県乙川町中島第三製所護国第一〇〇工場
〃	陸軍	小尉	大網　省三	〃（五六七）	〃・二〇・七・二九	東部ニューギニア

戦役名	陸海軍別	階級	戦没者氏名	住所	戦没年月日	戦没の場所
第二次大戦	海軍	一等兵曹	宮下武夫	笹川い(大木戸)一、七四二	昭和二〇・二・二〇	ブーゲンビル島
〃	陸軍	兵長	菅谷有夫	〃(〃)五、六三〇	〃 三・五・二	自宅
〃	〃	伍長	海上健司	〃(〃)五、五六八	—	台湾沖
〃	〃	伍長	掛巣一郎	〃(〃)(転出)		タイ兵站病院
〃	〃	兵長	山本恒	〃(〃)		フィリピン
〃	〃	中尉	高木三枝	〃(根方)九八三	昭和一七・一・二六	マレー半島レンギット
〃	海軍	兵曹長	山本忠光	〃(〃)九八二	〃 一七・二・二二	ソロモン群島
〃	陸軍	上等兵	多部田誠	〃(〃)一、三三六	〃 一八・一・二三	東京陸軍病院
〃	海軍	二等兵曹	八幡重治	〃(〃)九三七	〃 一九・一・三	神奈川県横須賀海軍病院
〃	陸軍	伍長	森田伊三男	〃(〃)九三九	〃 一九・四・二六	南方洋上
〃	〃	曹長	卜部晃行	〃(〃)五、八二八	〃 一九・五・三一	フィリピン・アドミラルティ諸島・マヌス島
〃	海軍	上等水兵	土屋助治	〃(〃)一、〇五九	〃 一九・六・一	パラオ島
〃	陸軍	上等兵	多部田三郎	〃(〃)九七五	〃 一九・七・三一	南支那海・バシー海峡
〃	〃	伍長	森田好明	〃(〃)	〃 一九・九・二三	西部ニューギニア
〃	〃	伍長	土屋隆男	〃(〃)一、一四八	〃 一九・一〇・二六	バリンタン海峡
〃	〃	上等兵	高安清太郎	〃(〃)(転出)	〃 一九・一一・六	中国
〃	海軍	水兵長	岩瀬源司	〃(〃)八〇六	〃 一九・	青森県大湊海軍病院
〃	〃	上等水兵	多部田克己	〃(〃)九七五	〃 二〇・二・二〇	南支那海
〃	〃	兵長	土屋政義	〃(〃)一、四三八	〃 二〇・六・五	フィリピン・ルソン島バレテ峠
〃	陸軍	伍長	土屋寛	〃(〃)八三三	〃 二〇・六・一九	沖縄
〃	〃	上等兵	林常夫	〃(〃)二、三三五	〃 二〇・七・二三	北支
〃	海軍	水兵長	材与五右衛門	〃(〃)二、三三五	〃 二〇・七・二〇	南方方面

日華事変	陸軍	上等兵	大網雅雄	〃（仲内）三、九五八	大正一〇・一〇・二九
〃	〃	伍長	野口良作	〃（〃）三、〇五三―二	昭和一四・一・一七
〃	〃	兵長	野口基一	〃（〃）三、一四〇	〃一六・九・一
第二次大戦	〃	伍長	高橋清左衛門	〃（〃）一、六四九	〃一九・一〇・四
〃	〃	准尉	高橋繁	〃（〃）三、〇四八	〃一九・一一・一九
〃	〃	伍長	野口三郎	〃（〃）三、〇五三―二	〃二〇・二・二八
〃	海軍	軍属	高木芳郎	〃（〃）一、四二〇	〃二〇・三・一七
〃	陸軍	兵長	多田潤躬	〃（〃）三、九四〇	〃二〇・四・八
〃	〃	伍長	岩瀬重雄	〃（〃）三、八九四	〃二〇・四・一三
〃	海軍	二等兵曹	野口直	〃（〃）三、〇五三―二	〃二〇・四・二五
〃	陸軍	伍長	高木章	〃（〃）三、一一	〃二〇・六・二〇
〃	〃	上等兵	佐久間政夫	〃（〃）三、一〇五	〃二〇・八・二八
日露戦争	〃	伍長	伊藤仙之助	笹川ろ（鹿野戸）九九六	明治三七・一・三〇
日華事変	〃	上等兵	鈴木三藏	〃（〃）一、〇一四	昭和一五・五・三三
第二次大戦	〃	伍長	高安新平	〃（〃）一、〇〇六	〃一七・一・一八
〃	海軍	二等兵曹	磯山辰雄	笹川い（〃）四、七一四	〃一八・一・二
〃	〃	水兵長	鈴木英夫	笹川ろ（〃）九九〇	〃一八・一一・四
〃	〃	上等兵曹	鈴木安雄	〃（〃）一、〇一四	〃一九・一・三一
〃	〃	上等兵曹	遠藤甚一郎	〃（〃）一、〇〇八	〃一九・七・八
〃	〃	二等兵曹	大後宗平	〃（〃）一、〇五一	〃一九・九・二六
〃	〃	二等兵曹	鈴木貞治	〃（〃）一、〇四〇	〃一九・九・二六
〃	陸軍	一等兵	高橋徳治郎	〃（〃）九八五	〃一九・一〇・三
〃	〃	兵長	大坂清	笹川い（〃）四、七一四	〃一九・一一・一七
〃	〃	伍長	向後定夫	笹川ろ（〃）一、〇五〇	〃二〇・三・一〇

佐倉衛戍病院	一一四七
江蘇省南京第六兵站病院	
名古屋陸軍病院	
中国中衡陽附近	
フィリピン・レイテ島	
フィリピン・コレヒドール島	
硫黄島	
中支・大豫鎮	
西部ニューギニア	
フィリピン・クラーク地区ピナツボ山西北麓	
沖縄	
小笠原諸島母島	
清国盛京省二〇三高地	
佐倉陸軍病院	
中支上海附近	
ニューギニア	
マーシャル群島	
南洋群島	
サイパン島	
西カロリン群島	
西カロリン群島	
中国野戦病院	
フィリピン	
フィリピン・ルソン島テボ	

戦役名	陸海軍別	階級	戦没者氏名	住所	戦没年月日	戦没の場所
第二次大戦	海軍	上等水兵	石毛　清	笹川ろ(鹿野戸)八三四	昭和一〇・四・二四	フィリピン・ピナツポ島
〃	陸軍	上等兵	野口留吉	〃（〃）一、〇五二	〃二〇・六・五	フィリピン
〃	〃	曹長	久保房一	〃（〃）一、一三一	〃二〇・一・一	シャム国メツセオ方面
〃	海軍	水兵長	鈴木酉松	〃（〃）一、〇一四		マリアナ諸島
〃			池田松治		〃一九・七・一九	ニューギニア方面
日華事変	陸軍	上等兵	石井政男	大久保 一、〇三三―一	〃一四・八・三	北支・山東省
第二次大戦	軍属		佐藤　光		〃一七・五・二〇	満洲国櫻ケ岡
〃	海軍	上等水兵	宮本三郎	大久保 九四八	〃一七・二・三	ニューギニア島
〃	軍属		大根要作	〃 九一―一	〃一八・一〇・二五	ニューギニア島ラバウル航空基地
〃	陸軍	上等兵	大根熊三郎	〃 五四〇	〃一九・五・六	ニューギニア島ゲニム附近
〃	軍属		堀江舜平	〃 四三三	〃一九・七・八	サイパン島
〃	陸軍	兵長	宮内純一	〃 一四一	〃一九・八・二五	中華民国
〃	兵長		佐藤穣	〃 一、三二	〃一九・九・九	ニューギニア島ダブア方面
〃	上等兵		宮内　浩	〃	〃一九・九・二〇	沖縄県那覇市
〃	上等兵		佐藤熊五郎	〃 五九	〃一九・一〇・二三	中華民国湖南省
〃	海軍	上等兵曹	堀井武二	〃 四	〃一九・一〇・二七	フィリピンレイテ島
〃	〃	二等兵曹	野口　了	〃 四六九	〃二〇・一・一〇	豊橋海軍航空隊
〃	陸軍	上等兵	佐藤忠司	〃 一七九	〃二〇・二・一七	自宅
〃	〃	大尉	野口　信	〃 四六九	〃二〇・六・一三	沖縄本島島尻岬
〃	〃	兵長	飯田利雄	〃 九六	〃二〇・六・二〇	沖縄本島那覇
〃	〃	伍長	金田義雄	〃 三、六五	〃二〇・六・二五	ニューギニア島マルバン
〃	〃	曹長	堀江　健	〃 四三三	〃二〇・七・五	フィリピン・ルソン島バンバン

〃	〃	伍長	宮内光和	東和田	二〇三	〃二〇・八・四	満洲龍江省
〃	〃	軍属	堀江傳	〃	二〇一	〃二〇・一一・三〇	北ボルネオ
〃	海軍	一等関兵曹	宮内忠治	大久保	五九	〃二〇・三・二四	ペラオ島
〃	陸軍	兵長	堀江誠司	〃	一三三	〃二三・八・三	自宅
日露戦争	〃	輜重輸卒	菅谷萬次郎	舟戸		明治三七・一・三	清国盛京省
日華事変	〃	曹長	菅谷勝雄	〃	八九	昭和一三・一一・一一	中支
〃	〃	曹長	菅谷正一	〃	一、四五九	〃一四・二・一〇	佐倉陸軍病院
第二次大戦	〃	軍曹	菅谷義禮	〃	八三二	〃一七・八・七	東京世田ヶ谷区第二陸軍病院
〃	〃	兵長	菅谷実正	〃	七八九	〃一七・九・七	東京慈恵医大病院
〃	〃	上等兵	花香武司	〃	九〇四	〃一八・一〇・七	自宅
〃	〃	上等兵	渡辺辰雄	〃	七三一	〃一九・七・一六	南方戦線
〃	〃	伍長	花香友造	〃	一、二〇〇	〃一九・九・三〇	グアム島
〃	〃	伍長	大久保信治	〃	七三二—一	〃一九・一〇・三三	沖縄
〃	陸軍	兵長	菅谷徳司	〃	八三三—一	〃一九・一一・八	フィリピン・レイテ島
〃	海軍	一等兵曹	宇井正夫	〃	九三	〃一九・一二・四	セレベス島
〃	陸軍	伍長	花香寿雄	〃	七四三	〃二〇・二・二六	満洲国牡丹江陸軍病院
〃	海軍	軍属	渡辺武夫	〃	九一	〃二〇・七・一五	フィリピンセブ島
日華事変	陸軍	伍長	菅谷春男	神田		〃一四・五・二八	中支・湖北省羅漢寺附近
〃	〃	伍長	滑方善四郎	〃	一四九	〃一四・八・二五	ノモンハン
〃	〃	一等兵	滑方五郎	〃	一四九	〃一四・三・六	（勝又隊）
第二次大戦	〃	准尉	大根清次	〃	一〇六	〃一九・五・一七	吉林省病院
〃	〃	兵長	菅谷武夫	〃	一四三	〃一九・一〇・八	フィリピン・レイテ島リモン
〃	〃	兵長	堀江茂義	〃	二〇一	〃一九・二・一〇	ソビエト連邦ヤプロフワヤ
〃	〃	兵長	菅谷喜義	〃	二〇〇	〃二一・七・二〇	自宅

戦役名	陸海軍別	階級	戦没者氏名	住所	戦没年月日	戦没の場所
日清戦争	陸軍	一等兵	宮崎　弥太郎	東和田　三三三	明治二六・八・一五	台湾・新竹
〃	〃	兵長	菅谷　義男	〃　二六九	昭和一八・一・三	北支・天津陸軍病院
第二次大戦	海軍	上等水兵	原　三郎	〃　六〇	〃一九・二・六	マーシャル群島
〃	陸軍	准尉	菅谷　雅雄	〃　五〇	〃一九・五・二二	ニューギニア島オンブロック
〃	〃	伍長	岡田　政治	東和田　五四九	〃一九・六・三〇	フィリピン
〃	〃	准尉	宮崎　長太郎	〃　三三〇	〃一九・六・	ニューギニヤ島ウイアーク
〃	海軍	軍属	菅谷　正次	〃　二六九	〃一九・八・四	ソロモン群島ブーゲンビル島
〃	〃	軍属	菅谷　國二郎	〃　五〇	〃一九・八・二	ソロモン群島ブーゲンビル島
〃	陸軍	伍長	大木　正男	〃　三三五—二	〃一九・八・八	ヌンホル島
〃	〃	伍長	加納　正雄	〃　二四〇	〃一九・	フィリピン
〃	海軍	水兵長	菅谷　秀雄	〃　九五	〃二〇・一・二八	黄海洋上
〃	〃	梶山　正義	舟戸	四三—二	〃二〇・三・一七	硫黄島
〃	〃		佐藤　次雄	東和田　一	〃二〇・四・二四	フィリピン・クラークピナツポ山
〃	〃	一等兵曹	宮崎　博夫	〃　三三三	〃二〇・七・八	滋賀県大津航空隊
〃	陸軍	伍長	渡辺　正夫	舟戸（東和田）　五三〇	〃二〇・	フィリピン
〃	〃	軍曹	髙木　三郎	東和田　四七二	〃二一・六・一六	満洲国鉄嶺陸軍病院
〃	〃		山田　繁	〃　八八	〃二三・三・二七	自宅
〃	〃	幹部候補生（軍曹）	上代　恭尓	〃　五八	〃二三・五・三〇	自宅
日露戦争	〃	一等卒	髙安　春平	窪野谷　六三六	明治三七・一〇・三〇	清国盛東省松樹山
第一次大戦	海軍	二等水兵	伊藤　京太郎	〃	大正三・一〇・一八	青島攻撃中・高千穂艦上にて
日華事変	陸軍	伍長	髙木　義夫	〃　三七	昭和一三・四・一九	蘭陸鎮第三野戦病院
〃	〃	上等兵	小堀　正雄	〃　一〇五—一	〃一三・一〇・一五	漢口葛店附近

〃	〃	曹長	宇井　清	〃	六六〇	一五・一・二	安徽省懐寧県蘇家戸
第二次大戦	海軍	伍長	高安　次郎	〃	六三六	一九・八・三	ニューギニア島マフア方面
〃	〃	上等水兵	高木　才治郎	〃	二五九	一九・八・一〇	マリアナ群島
〃	陸軍	兵長	宇佐美　正之	〃	一、三五六	一九・九・二	中華民国折江省西城県
〃	〃	兵長	高木　親光	〃	六一八	一九・一一・一五	フィリピン・レイテ島
〃	〃	伍長	宇井　勝男	〃	五九一	一九・一一・一五	フィリピン・レイテ島
〃	〃	兵長	星野　丕（ヒロシ）	〃	六二七	二〇・三・二五	シベリヤ
〃	〃	軍曹	高木　勘之助	〃	二五六	二〇・五・二〇	バシー海峡上空
〃	〃	兵長	菅谷　良知	〃	二四六	二〇・六・九二	中華民国広西省武宣県東郷
〃	海軍	兵曹長	高橋　新治	〃	二三三	二〇・六・	南方海上
〃	〃	上等兵曹	高安　武夫	〃	六三六	〃 二〇・八・二四	太平洋方面
〃	〃	一等兵曹	宇佐美　政雄	〃	一、三五六	不詳	ソロモン諸島
〃	陸軍	兵長	伊藤　金次郎	小貝野	一六二	昭和一八・一一・二四	北支・広饒県
〃	〃	軍曹	小林　忠雄	〃	九二	〃 一九・一一・一三	フィリピンルソン島
〃	海軍	一等兵曹	青柳　孫三郎	〃		〃 一九・一二・二三	霞ケ浦海軍病院
〃	陸軍	伍長	青柳　敏尚	〃	一六〇	〃 二四・五・八	自宅
日露戦争	〃	一等卒	成毛　卯兵衛	平山	八三九	明治三七・二・五	広島予備病院
遭難	海軍	三等水兵	松井　泰一	〃	五三八	大正六・一・二四	横須加筑波艦遭難
日華事変	陸軍		吉田　忠	〃	五三〇—三	昭和三・	中華民国徳安県王子嶺
第二次大戦	〃	上等兵	小林　和	〃	一、三二九	〃 一九・六・一八	中支・湖南省平江県金音家大家
〃	海軍	上等兵曹	細野　米藏	〃	二七二	〃 一九・八・二	テニアン島
〃	陸軍	軍曹	遠藤　正男	〃	一、〇四九	〃 二〇・二・	フィリピン・セブ島
〃	〃	伍長	小林　勝夫	〃	四一	〃 二〇・四・三	フィリピン・ルソン島・ネバビスカヤ州アリタオ
〃	海軍	大尉	高橋　武男	〃	一、二五	〃 二〇・五・八	フィリピン・ルソン島

戦役名	陸海軍別	階級	戦没者氏名	住所	戦没年月日	戦没の場所
第二次大戦	陸軍	伍長	須沢利雄	平山 五六六	昭和一〇・六・二五	ルソン島ヌイカマ州サリナス
〃	〃	軍曹	加瀬泰三	〃 五九二	〃 二〇・六・二〇	南支・九龍
〃	〃	兵長	小林萬治	〃 五九八	〃 二〇・八・七	ダバオ
日清戦争	〃	輜重輸卒	松井寛治	〃 一六三	〃 二一・一・二五	シベリヤチタ地区ヤブノーカ収容所
日露戦争	〃	輜重輸卒	高橋啓五郎	高部 一六三	明治三八・一・四	台湾↓広島
日華事変	〃	伍長	高橋一政	〃 八七一	〃 三八・九・二四	清国塞馬兵站病院
第二次大戦	海軍	軍属	嶋田光雄	〃 七五九	昭和一四・九・一八	中華民国江西省高安県劉家第一〇一師第二野病
〃	〃	上等水兵	岩井保治	〃 二三一二	〃 一九・六・一五	南洋群島
〃	〃	上等兵曹	山中義光	〃 八八八	〃 一九・七・八	マリアナ方面
〃	〃	上等兵曹	伊藤平和	〃 二三九	〃 一九・八・二	テニアン島
〃	陸軍	曹長	高橋保治	〃 一六三	〃 一九・	満洲
〃	陸軍	軍曹	高橋喜平	〃 一六三	〃 一九・	フィリピン・レイテ島
〃	〃	伍長	高橋幸太郎	〃 一九九	〃 二〇・二・一七	ブーゲン島ダース
〃	〃	飯田辰雄	大友	〃 一九九	〃 一九・七・一八	サイパン島
〃	海軍	上等水兵	河連武夫	〃 一二五	〃 一九・八・一〇	マリアナ諸島
〃	陸軍	伍長	飯田豊	〃 （東金市）	〃 一九・九・三〇	マリアナ諸島
〃	海軍	二等兵曹	飯田良平	〃 七〇	〃 二〇・七・一五	フィリピンサンボアンガ
〃	陸軍	一等兵	飯田繁	〃 一三〇—二	〃 二四・五・二四	国立佐倉病院
日露戦争	〃	一等卒	小和瀬順	小座 三一	明治三八・三・八	清国盛京省
第二次大戦	〃	軍曹	岡野禔	〃 一一七	昭和一九・九・三〇	グアム島
〃	〃	上等兵	鎌形平助	〃 一四四	〃 二〇・一・二〇	パラオ島
〃	〃	伍長	高橋恒夫	〃 一〇四	〃 二〇・二・一一	レイテ島・カンギポット山附近

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一五〇
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	四二
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	四一
西南の役	〃	〃	〃	日露戦争	日華事変	〃	一、〇四七
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	九六六
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一、四三九
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	九九七
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	九七三
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	六三四
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	九九二
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一、〇四二
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	四九九
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	八八九
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一、四三七
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	六四四
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	六三四—一
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一、〇八四
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一、〇四一
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	九〇三
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	九〇三
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	九九七
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	六四六
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	六二九

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	二〇・三・
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	二〇・四・一〇
〃	〃	〃	〃	〃	〃	不明	明
〃	〃	〃	〃	〃	〃	明治	二〇・四・二一
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	三七・一〇・一三
〃	〃	〃	〃	〃	〃	昭和	二・一〇・一九
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一五・一・一七
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一五・七・五
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一六・八・一〇
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一六・八・一九
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一七・五・七
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一九・五・一〇
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一九・六・一五
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一九・一〇・三
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一九・一一・八
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一九・一一・一五
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一九・一一・一六
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一九・二・二〇
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	二〇・一・四
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	二〇・一・一六
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	二〇・四・二三
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	二〇・八・一六
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	二〇・二・二五
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	二・二・五・二〇

一一五三	硫黄島	沖縄	不明（工兵志願・赤羽出征）	肥後　熊本	清国高力勾附近チンケンポ	中華民国上海	北支・山東省曲阜県馬庄
中支・漢口陸軍病院	北支・山東省来燕県古城	中華民国河北省東之関	ニューギニア南方海面	グァム島近海	ニューギニア・ウイワーク	東部ニューギニアバラム島	フィリピン・レイテ島
フィリピン・レイテ島リモン高地	フィリピン・レイテ島	フィリピン・レイテ島	佐倉陸軍病院	不詳	ビルマ・レバタン	樺太	ソ連邦・イズベスト地区ラルマ収容所
ソ連邦・シベリヤマルタ収容所							

戦役名	陸海軍別	階級	戦没者氏名	住所	戦没年月日	戦没の場所
第二次大戦	陸軍	軍曹	飯田正春	八重穂 一四九	昭和一八・六・八	北支・河北省撫寧県後官地
〃	〃	兵長	吉田正義	〃 八二	〃 一九・九・一九	中支方面・広陵
〃	海軍	上等水兵	相馬勇治	〃（粟野） 四四	〃 二〇・一・五	小笠原方面
〃	陸軍	兵長	飯田賢治	〃 一四九	〃 二〇・一〇・二五	ソ連邦チタ地区ハラグン収容所
〃	〃	兵長	高橋克己	〃 一七六	〃 二一・七・四	ソ連邦シベリヤ沿海洲ポンエット
日清戦争	〃	輜重輸卒	山田由松	小南 三一	明治二八・六・二七	旅順口兵站病院
日露戦争	〃	歩兵伍長	海宝辰五郎	〃 一八一	〃 三八・三・八	清国盛京省開原兵站病院
〃	〃	砲兵二等卒	布施羊吉	〃 九一〇	〃 三八・七・三	清国盛京省後三家子
〃	〃	輜重輸卒	越川誠治	〃 一八七六	〃 三八・一〇・三	清国盛京省後三家子
日華事変	〃	伍長	和泉三郎	〃 九九四	昭和一三・一〇・一〇	中華民国上海
〃	〃	上等兵	宮沢正太郎	〃 二四	〃 一三・一一・一	中華民国江蘇省宝山県野戦予備病院
〃	〃	曹長	鈴木真平	〃（転出）	〃 一三・一・一七	中華民国湖北鐘祥沙港
〃	〃	伍長	宇井正一	〃 九三三	〃 一三・九・一一	中支・西江省星子県西孤山
〃	〃	兵長	青野吉幸	〃 一、三三〇	〃 一七・四・一五	内地
第二次大戦	海軍	一等水兵	香取徳義	〃 一、二八九	〃 一七・五・七	ニューギニア南東海域
〃	〃	兵曹長	布施伊一郎	〃 九一八	〃 一七・六・二五	南方
〃	〃	軍属	岡野正衛	〃	〃 一八・一・一七	南洋群島
〃	〃	上等水兵	青野甲治	〃 一、三三〇	〃 一八・六・八	南方海上
〃	〃	水兵長	岡野勇次	〃 一、二六六	〃 一八・八・三	南洋群島
〃	〃	上等水兵	矢部文雄	〃 一、八七九	〃 一八・九・一九	外ソロモン
〃	〃	兵長	海宝和夫	〃 九九八	〃 一八・一一・二五	ギルバート諸島方面
〃	陸軍	伍長	岡野茂勝	〃 一、二六六	〃 一九・四・三	ニューギニア・ホルランヂヤ

〃	〃	上等兵	鈴木　弘太郎	〃	二、五二一	〃　一九・六・二五
〃	〃	伍長	高嶋　友雄	〃	一、〇三〇	〃　一九・六・一八
〃	〃	兵長	佐藤　清	〃	一九・六・二六	北支・館陶県
〃	〃	兵長	掛巣　邦治	〃	一、三〇五	〃　一九・九・一八
〃	海軍	軍曹	佐久間　定雄	〃	九六五	〃　一九・九・三〇
〃	陸軍	兵曹長	山田　健司	〃	一、〇〇〇	〃　一九・一〇・二五
〃	〃	軍曹	宝利　平	〃	一、〇〇三	〃　一九・一一・一三
〃	〃	兵長	河連　廣	〃	九一九	〃　一九・一一・一四
〃	〃	伍長	白石源五左衛門	〃	一、一八一	〃　一九・一一・一五
〃	〃	伍長	掛巣　武雄	〃	一、九〇三	〃　一九・一一・二五
〃	海軍	水兵長	林　春男	〃	二、六三一	〃　二〇・二・二三
〃	陸軍	伍長	和泉　誠一郎	〃	一、〇八二	〃　二〇・四・二〇
〃	〃	軍曹	香取　銅三郎	〃	九九五	〃　二〇・六・一〇
〃	〃	伍長	宇井　八重吉	〃	九三一	〃　二〇・六・一五
〃	〃	伍長	鈴木　茂信	〃	一、〇六〇	〃　二〇・六・一九
〃	〃	上等兵	矢部　庄吉	〃	一、二八	〃　二〇・七・二〇
〃	〃	伍長	岩瀬　重藏	〃	二六	〃　二〇・八・三
〃	〃	伍長	宝利　保	〃	九九六	〃　二〇・八・七
〃	〃	兵長	高島　夘三郎	〃	二、五六一	〃　二〇・八・三一
〃	〃	兵長	嶋田　由治郎	〃	八六二―一	〃　二〇・一〇・二三
〃	〃	兵長	高科　徳治	〃	一、二九二	〃　二〇・一一・一七
〃	〃	兵長	飯田　耕太郎	〃	一、二九〇	〃　二〇・二・二三
〃	〃	兵長	根本　寛信	〃	一、〇二二	〃　二四・二・二三

ニューギニア
北支・館陶県
中華民国江蘇省如皋県南坎鎮
東経一二四度　北緯三五度〇二分の海上
グアム島
フィリピン方面
フィリピン・マニラ港
フィリピン・レイテ島
フィリピン・レイテ島リモン
フィリピン・レイテ島
フィリピン・マニラ
ビルマ・ペーク島
ニューギニア
フィリピン・マニラ東方二〇粁
沖縄本島
フィリピン・バレクパパン
ビルマ
フィリピン・レイテ島カギホスト山
ビルマ
ポートプレヤ
佛印プノンペン
ソ連邦シベリア・イルクーツク州チレンボウ収容所
自宅

戦役名	陸海軍別	階級	戦没者氏名	住所	戦没年月日	戦没の場所
第二次大戦	海軍		宝理辰男	小南		南方
〃	〃		篠本善治	〃（転出）	八三四	詳細不明
日清戦争	陸軍	軍曹	鈴木七五三吉	夏目	三、一六三	明治二八・九・七
日露戦争	〃	歩兵一等卒	向後榮次郎	〃	二、三七三	〃 三七・一〇・一一
日華事変	〃	伍長	鈴木長左衛門	〃	一、一五六	昭和一三・一〇・一五
〃	〃	上等兵	掛巣正治郎	〃	二、九〇三	〃 一三・一〇・一六
〃	〃		美馬孝義	〃（転籍）		〃 一四・八・二九
〃	〃		山本繁	〃（〃）		〃 一五・四・五
〃	〃	伍長	池永正明	〃	二、九九六	〃 一五・五・二五
第二次大戦	海軍	兵曹長	山本博	〃	二、四八二	〃 一八・一・三
〃	〃	二等兵曹	鈴木正一	〃	一、一七五	〃 一八・二・二五
〃	〃	上等兵曹	掛巣春治	〃	三、三八〇	〃 一八・二・八
〃	海軍	上等兵曹	戸村利夫	〃	二、三七五	〃 一九・一・五
〃	〃		大根政次	小南（夏目）	四七一	〃 一九・三・四
〃	〃	上等水兵	菅谷雅雄	〃（〃）	三八八（転出）	〃 一九・六・一
〃	〃		宮内七之助	夏目（転籍）		〃 一九・六・一五
〃	海軍	兵長	掛巣晃	〃	三、一九一	〃 一九・七・八
〃	陸軍	上等兵	掛巣国藏	〃	三、二四五	〃 一九・八・一八
〃	〃	兵長	加瀬甲	小南（夏目）	四七六	〃 一九・八
〃	〃	曹長	押山三郎	夏目	二九九	〃 一九・九・二〇
〃	陸軍	上等兵	加瀬秀義	〃（転籍）		〃 一九・九・三〇
〃	〃	宮内廣司		〃	一、四〇九	〃 一九・一〇・一四
〃	〃	上等兵	駒田喜代藏	小南（夏目）	一、四七二	〃 一九・一〇・二四

〃	海軍		山田英治	夏目	二、七、六
〃	〃		滑川忠彦	〃（転籍）	〃
〃	陸軍	伍長	高木英治	〃	〃
〃	〃	上等兵	遠藤岩松	〃	一、一六、八
〃	〃	上等兵	笹本翠	〃	三、三、三
〃	〃	中尉	鈴木定良	〃	三、一六、二
〃	〃	伍長	押山松雄	〃	二、九、九
〃	〃	上等兵	鈴木定治郎	小南（夏目）	四、七、二
〃	〃	上等兵	嶋田峯治	夏目	二、七、三五
〃	海軍	水兵長	鈴木恭司	〃	二、八、九、二
〃	陸軍	軍曹	石毛武雄	〃	一、三、八、六
〃	海軍	二等兵曹	山本静男	〃	一、五、五、五
〃	陸軍		鈴木仙司	〃	三、二、三、四
〃	〃	伍長	戸村益夫	〃	二、七、三、四
〃	〃	兵長	滑川朝次	〃	二、三、八、二
〃	海軍	上等水兵	永島武夫	〃（転籍）	
〃	陸軍	上等兵	石毛安正	〃	二、四、八、九
〃	〃	兵長	駒田福太郎	小南（夏目）	一、四、八、九
〃	〃		掛巣義安	夏目	三、二、四、五
〃	〃		嶋田節翁	〃	二、八、九、四
〃	〃	兵長	木内晋	〃	三、三、六、三
〃	〃	兵長	遠藤金司	〃	
〃	〃	兵長	鈴木武雄	〃（転籍）	

〃	一九・一〇・二五	フィリピン東方海面	
〃	一九・一一・一三	レイテ島	
〃	一九・一一・一五	ソロモン・ショートランド	
〃	一九・一一・一七	南方黄海方面	
〃	一九・一二・八	南支・湖南省冷水舗	
〃	一九・一二・一七	台湾加義飛行場	
〃	一九・一二・二〇	満洲国野戦病院	
〃	二〇・三・一八	中華民国湖南省	
〃	二〇・四・五	湖南省白石舗	
〃	二〇・四・六	印度洋方面	
〃	二〇・五・二〇	東部ニューギニア・ヤンヤップ	
〃	二〇・六・二六	太平洋東方海面	
〃	二〇・六・二八	フィリピン・ルソン島	
〃	二〇・七・一〇	ニューギニア島アイタベ	
〃	二〇・八・一四	南支江西省	
〃	二〇・八・二四	満洲亜布絡老駅	
〃	二〇・一〇・一二	中支・上海	
〃	二〇・	南支・湖北省	
〃	二・九・一六	ソ連邦シベリヤ沿海洲ポンエット収容所	
〃	二・三・三・八	自宅	
〃	二・三・三・一五	外蒙古ウランバルーアムラルト病院	
〃	二・五・一三	自宅	
〃	二三・七・一七	帰郷後	

戦役名	陸海軍別	階級	戦没者氏名	住所	戦没年月日	戦没の場所
第二次大戦			木内正夫	夏目 三、二四〇		中支方面
日華事変	陸軍	上等兵	武田恭一	東今泉 九二〇	昭和三・二三・一八	中華民国杭州
〃	〃	〃	大柳雅夫	〃 八二六	〃 二五・八・四	中華民国河北省粛寧懸
第二次大戦		伍長	高嶋好夫	〃 一、〇二一	〃 一七・六・三	中華民国浙江省白雲山
〃	海軍	二等兵曹	櫻井正夫	〃 四三五	〃 一七・八・七	ソロモン群島
〃	〃	軍属	福島孝	〃 九一八	〃 一七・一〇・九	サイパン島
〃	陸軍	准尉	青柳雅男	〃 九四七	〃 一八・一・六	ガダルカナル
〃	〃	一等兵	岡野忠男	〃 八八八	〃 一八・四・三	満洲
〃	〃	一等兵	野口一守	〃 二三四	〃 一八・七・一八	自宅
〃	海軍	二等兵曹	木之内德二	〃 九〇三	〃 一八・二・四	邦方東南海上
〃	〃	軍属	高根年夫	〃 三四五	〃 一八・三・二四	南方洋上
〃	陸軍	上等兵	伊藤佐平	〃 八七五	〃 一九・四・一六	フマロツ島
〃	海軍	軍属	青柳儀三郎	〃 八二六	〃 一九・五・一七	フエン島
〃	〃	上等水兵	岩瀬賢司	〃 九九六	〃 一九・七・八	サイパン島
〃	〃	水兵長	高安寅雄	〃 九八六—一	〃 一九・七・八	サイパン島
〃	陸軍	伍長	青柳豊	〃	〃 一九・五・二五	ニューギニア・ワルソー
〃	〃	上等兵	高根常司	〃 三四五	〃 一九・七・二六	湖北省漢口
〃	海軍	二等兵曹	青柳正樹	〃 八一九	〃 一九・八・二	テニヤン島
〃	陸軍	上等兵	岩田太一	〃 一、〇二四	〃 一九・八・二九	セレベス島
〃	〃	二等兵	岩田鶴松	〃 七〇九	〃 一九・一〇・一三	安東省五龍背
〃	海軍	水兵長	永井宜雄	〃 八一九	〃 一九・一〇・二五	レイテ湾
〃	陸軍	兵長	青柳清治	〃 八二六	〃 一九・一一・八	レイテ島
〃	〃	兵長	岡野要之助	〃 八一九	〃 一九・一一・一七	レイテ島

〃	伍長	青柳巳代治	〃	八九五	〃一九・一一・三	ニューギニア
〃	〃兵長	青柳正吉	〃	一、二七九	〃一九・三・二七	レイテ島
〃	〃軍曹	林利男	〃	九四四	〃二〇・二・一	フィリピン
〃	海軍少尉	野口政治	〃	九二四—一二	〃二〇・四・二四	フィリピン
〃	陸軍伍長	青柳公三郎	〃	九五一	〃二〇・五・三	ルソン島
〃	〃一等兵	青柳栄三	〃	一三五	〃二〇・五・二七	東京陸軍病院
〃	〃上等兵	伊藤一己	〃	九二一	〃二〇・八・一九	中支
〃	海軍兵曹長	大柳圭一	〃	八三六	〃二〇・九・五	東部ニューギニア
〃	陸軍軍曹	青柳辰蔵	〃		〃二〇・一一・二五	ハルマヘラ
〃	〃上等兵	伊藤孫右衛門	〃	九三〇	〃二一・二・二	青島
西南の役	〃一卒	保立冨吉	石出	一、五八二	明治一〇・七・三	熊本
日清戦争	〃二軍	野口桂蔵	〃	一、五九三	〃二八・八・二七	台湾
日露戦争	〃上等兵	溝口長吉	〃	一、六一七	〃三八・五・一一	自宅
	〃伍長	清水喜一	〃	一、五五一	大正六・三・二九	水戸
日華事変	〃軍曹	溝口正	〃	一、六一七	昭和一三・一〇・二七	中支・徳安県
	〃上等兵	岩田三郎	〃	一、五九一	〃一四・五・三三	大阪市天王寺陸軍病院
	〃曹長	保立四郎	〃	一、六一四	〃一六・四・七	千葉療養所
第二次大戦	〃伍長	宮本又雄	〃	一、一六九	〃一九・一・二〇	ニューギニア
	〃兵長	小林與市	〃	一、五九四	〃一九・四・一九	ニューギニア・アイタベ
	〃兵長	西谷惣次郎	〃		〃一九・五・三	北太平洋
	海軍水兵長	林智雄	〃	一、五七四	〃一九・六・二九	南方洋上戦艦津軽
	〃上等水兵	河口栄助	〃	一、六二三	〃一九・八・一〇	マリアナ諸島
	陸軍軍曹	川口一郎	〃	一、一二六	〃一九・一一・二四	パラオ諸島ペリコウ島
	〃兵長	平山秀次	〃	一、六二四	〃一九・一二・五	ニューギニア
	〃軍曹	清水嘉一	〃	一、六六二	〃二〇・二・一一	フィリピン・クラーク

戦役名	陸海軍別	階級	戦没者氏名	住所	戦没年月日	戦没の場所
第二次大戦	海軍	軍属	林　清助	石出 一、七二	昭和一〇・三・一七	硫黄島
〃	陸軍	曹長	田谷　秀松	〃 八	〃 二〇・三・二一	ニューギニア
〃	海軍	二等兵曹	岩田　貞三	〃 一四	〃 二〇・四・三〇	千葉市千城病院
〃	陸軍	伍長	保立　清太郎	〃 五三	〃 二〇・五・一七	沖縄本島
〃	〃	伍長	保立　裕助	〃 一、六二七	〃 二〇・六・二五	那覇市摩文仁
〃	〃	曹	岩田　謙三郎	〃 一、六二五	〃 二〇・七・二七	レイテ島ビリヤバ
〃	海軍	軍属	保立　仙助	〃 一、六三五	〃 二〇・一〇・一八	ヤップ島
〃	〃	上等兵曹	小原　正章	〃 一、六三一—二	〃 二三・五・七	自宅
〃	陸軍	伍長	保立　利平	〃 一、六〇五	〃 二〇・二・一六	東京
〃	〃	上等兵	保立　芳松	〃 一、六〇三	〃 二一・一・九	自宅
日露戦争	〃	一等兵	石毛　兼吉	〃 新宿	明治三七・三・二一	二〇三高地
満洲事変	〃	伍長	柳堀　兵彌	〃 二、一〇八—二	昭和	満洲
日華事変	〃	中尉	菅谷　一正	〃 一、四五六	〃 一五・四・八	静岡県浜松市
〃	〃	中尉	石毛　完	〃 一、二六六	〃 一六・四・二六	スラバヤ沖海戦
第二次大戦	〃	中尉	柳堀　四郎	〃 一、一八四	〃 一七・二・二〇	東京第二陸軍病院大蔵臨時分院
〃	陸軍	上等兵	柳堀　寛二郎	〃 一、二八四	〃 一七・三・一〇	中支湖南作戦
〃	〃	伍長	柳堀　信彦	〃 一、三〇〇—三	〃 一八・六・四	北支
〃	〃	中尉	菅谷　忠	〃 一、四五六	〃 一八・一〇・一九	トラック島沖
〃	海軍	一等兵曹	渡辺　保治	〃 一、二三〇	〃 一九・二・一七	北支
〃	陸軍	上等兵	池田　徳太郎	〃	〃 一九・三・一八	南洋
〃	〃	軍属	根本　恒	〃 一、二七八—一	〃 一九・六・一九	ビルマ
〃	陸軍	兵長	滑川　良雄	〃 一、四一〇	〃 一九・七・二一	テニアン島
〃	海軍	上等水兵	岩瀬　寅松	〃 六六三	〃 一九・八・二	

〃	陸軍	兵長	菅谷　子之助	〃	一、三六	〃　一九・一〇・四
〃	〃	曹長	柳堀　優士郎	〃	一、一三二	〃　一九・一一・三
〃	〃	軍属	柳堀　宇平	〃	一、一七一	〃　一九・一一・一一
〃	陸軍	伍長	高橋　政雄	〃	六六四	〃　一九・一二・三
〃	〃	伍長	宝利　有	〃	三二九	〃　一九・一二・三
〃	〃	曹長	柳堀　弘	〃	一、二六〇	〃　二〇・一・二四
〃	海軍	上等水兵	千葉　榮三郎	〃	七〇五	〃　二〇・二・七
〃	陸軍	伍長	菅谷　康	〃	七二一	〃　二〇・二・二六
〃	海軍	上等水兵	越川　咲吉	〃	六二八	〃　二〇・三・三
〃	〃	軍属	菅谷　信和	〃	一、四五六	〃　二〇・三・七
〃	陸軍	大尉	秋山　亀吉	新宿（転出）		〃　二〇・四・三
〃	海軍	兵曹長	柳堀　清	〃	一、二五一	〃　二〇・六・八
〃	陸軍	伍長	柳堀　正六	〃	二、一〇六	〃　二〇・六・二〇
〃	〃	上等兵	柳堀　甲子雄	〃	一、一六九	〃　二〇・七・一〇
〃	〃	兵長	柳堀　匡男	〃	一、一七八	〃　二〇・七・二〇
〃	海軍	上等兵曹	石毛　林次	〃	一、二六六	〃　二〇・四・七
〃	陸軍	兵長	伊藤　幸太郎	〃	九〇六	〃　二〇・七・三〇
〃	〃	曹長	柳堀　友昭	〃	一、二七一	〃　二〇・八・一四
〃	〃	上等兵	柳堀　啓	〃	一、三九	〃　二一・二・七
〃	〃	兵長	野沢　利平	〃	一、三三	〃　二一・八・三〇
日華事変	〃	伍長	飯田　政次	宮本	二六七	〃　二二・一〇・二四
〃	〃	上等兵	林　幸雄	〃	五四	〃　二三・一・三

中華民国湖南省茶陵第一野戦病院
フィリピン・バレンシャン
フィリピン・レイテ島オモッタ港外
フィリピン・レイテ島
レイテ島
ルソン島バンガシナン
コレヒドール島
フィリピンハルマヘイ島
南澳島南集方沖
硫黄島
沖縄
千島
沖縄
北支・武昌
フィリピン・ルソン島ガギポット山
西部太平洋（戦艦大和）
フィリピン・クラーク
フィリピン・ルソン島マウンテ州マラバン
自宅
吉毛山麓
中華民国上海
中華民国上海兵站病院

戦役名	陸海軍別	階級	戦没者氏名	住所	戦没年月日	戦没の場所
日華事変	陸軍	上等兵	飯田福松	宮本 三八一一	昭和一五・三・四	佐倉陸軍病院
第二次大戦	〃	一等兵	石毛幸次郎	〃	〃 一八・九・二〇	中華民国河南省沁県懐慶
〃	〃	兵長	飯田又一郎	〃 四三六	〃 一九・六・一〇	東部ニューギニア
〃	〃	伍長	飯田専一	〃 四二四	〃 一九・一・二	フィリピン・レイテ島
〃	〃	伍長	岩井三郎	〃	〃 二〇・三・一七	硫黄島
〃	〃	兵長	飯田保平	〃 五四二	〃 二〇・七・一	フィリピン・クラーク
日華事変	〃	伍長	宮口康	今郡 四九五	〃 一四・一二・二〇	中華民国絡遠省包頭城
第二次大戦	〃	兵長	吉田日出吉	〃 五〇三	〃 一九・三・一五	ソロモン群島ブーゲンビル島方面
〃	海軍	機関兵曹	高安孝雄	〃 二〇三	〃 一九・六・五	小笠原方面
〃	陸軍	伍長	実川義松	〃 三四九	〃 一九・七・六	印度・アッサム州ラム地方
〃	〃	一等兵	高安太郎	〃 二〇三	〃 一九・八・二	中支
〃	海軍	上等兵曹	宮口春雄	〃 一一二	〃 一九・一〇・三	フィリピン沖海戦
〃	陸軍	曹長	宮沢曠	〃 三六〇	〃 一九・二・三一	フィリピン・レイテ島
〃	〃	少尉	宮沢酉松	〃 五六三	〃 二〇・二・二三	フィリピン・ルソン島
〃	〃	兵長	吉田香	〃 三六	〃 二〇・三・一七	硫黄島
〃	〃	兵長	宮沢伊三郎	〃 四一	〃 二〇・六・二〇	沖縄
〃	〃	一等兵	吉田重展	〃 四六四	〃 二〇・八・八	長野県上山田町陸軍病院分院
〃	〃	兵長	石毛新藏	〃 五〇六	〃 二一・二・七	満洲
日華事変	〃	上等兵	山本廣	谷津 六七六一二	〃 一三・三・二七	北支・山東省台児荘
第二次大戦	〃	上等兵	高橋竹治	〃 三三三	〃 一七・四・二〇	満洲ハルピン
〃	海軍	一等兵曹	山本進	〃 六七六一二	〃 一八・八・七	ソロモン群島方面海戦
〃	〃	上等兵曹	谷本憲治	〃 二〇四	〃 一九・一〇・二五	フィリピン沖海戦

〃	陸軍	一等兵	宮沢　裕市	〃	二五四
〃	〃	伍長	河津　博	〃	一八五
〃	〃	曹長	宮沢　栄太郎	〃	二五三
〃	〃	上等兵	谷本衛左ェ門	〃	二〇・八・九
〃	〃	伍長	高橋　新	〃	二〇三
日露戦争	〃	輜重輸卒	野口　國之助	明治三七・七・八	
〃	〃	一等兵	西谷　丑松	〃	三七・九・三〇
日華事変	〃	伍長	岩瀬　保治	〃	一五六六
〃	〃	軍属	野口嘉右衛門	〃	一、三五
〃	〃	軍属	田谷　雄介	〃	一、五五三
第二次大戦	海軍		越川　萬吉	〃	一、五六三
〃	陸軍	上等兵	榊原　幹	〃	一、六八三
〃	〃	兵長	伊藤　治雄	〃	一、六四一
〃	〃	上等兵	野口　峯蔵	〃	一、六六一―二
〃	〃	上等兵	山野辺　豊作	〃	一、六二五
〃	〃	兵長	大塚　酉松	〃	六六九
〃	海軍	二等兵曹	伊藤　幸一	〃	一、〇五八
〃	〃	軍属	野口　源平	〃	一、五六九
〃	陸軍	伍長	関　龍男	〃	一、六二四
〃	〃	伍長	高木　幹次	〃	一、六七―二
〃	〃	上等兵	田谷　大吉	〃	三七七
〃	海軍		高安　大二郎	〃	一、〇五九
〃	〃	上等水兵	越川　堯	〃	一、六八一
〃	陸軍	軍属	小沢　穣	〃	一、六八八
〃	海軍	軍属	野口　止雄	〃	一、六八八
〃	〃	一等兵	佐倉病院	〃	二〇・一・二
〃	〃	伍長	レイテ島	〃	二〇・七・一
〃	〃	曹長	中華民国興安南省	〃	二〇・八・九
〃	〃	上等兵	満洲国境	〃	二〇・八・一五
〃	〃	伍長	北　支	〃	二一・三・二
〃	〃	輜重輸卒	従軍中発病広島にて	〃	三七・九・三〇
〃	〃	一等兵	清国牛荘東海清湾にて	〃	一六・二・三・三
〃	〃	伍長	中華民国湖北省京山県一家嶺	昭和一四・五・一五	
〃	〃	軍属	ボルネオ島クーチン沖	〃	一六・二・三・三
〃	〃	軍属	満洲国満鉄病院	〃	一七・六・二九
〃	〃		ソロモン海戦	〃	一八・七・六
〃	〃	上等兵	大宮島東岸附近	〃	一九・四・八
〃	〃	兵長	南方洋上	〃	一九・四・二九
〃	〃	上等兵	ビルマ国井上病院	〃	一九・七・一五
〃	〃	上等兵	マリアナ	〃	一九・七・一八
〃	〃	兵長	マリアナ	〃	一九・七・一八
〃	海軍	二等兵曹	中部太平洋	〃	一九・七・八
〃	〃	軍属	ニューギニア	〃	一九・八・三一
〃	陸軍	伍長	中部太平洋	〃	一九・九・三〇
〃	〃	伍長	中部太平洋	〃	一九・九・三〇
〃	〃	上等兵	ハルマヘラ島	〃	一九・一二・四
〃	海軍		フィリピン	〃	二〇・二・二四
〃	〃	上等水兵	自　宅	〃	二〇・五・三
〃	陸軍	軍属	中支・漢口野戦病院	〃	二〇・五・三
〃	海軍	軍属	北千島	〃	二〇・六・一八

戦役名	陸海軍別	階級	戦没者氏名	住所	戦没年月日	戦没の場所
第二次大戦	陸軍	軍曹	野口良平	羽計	昭和二〇・七・一	フィリピン・レイテ島
〃	〃	上等兵	小沢英夫	〃	〃二〇・七・	中支・湖南省
〃	〃	兵長	田谷常次郎	〃	〃二〇・九・二	台湾
〃	〃	兵長	高木広吉	〃	〃二〇・三・七	満洲吉林省
〃	〃	上等兵	田谷丑松	〃	〃二一・九・一〇	シベリヤ・イルクーツクチレンボーム収容所
〃	〃	上等兵	羽計武雄	〃	〃二一・九・一〇	千葉市仁戸名町第二国立病院
〃	〃	伍長	高安政三	〃	〃二一・九・二〇	新潟県柏崎療養所
日露戦争	〃	輜重輸卒	宮崎孝之	青馬	明治三八・五・九	清国盛京省車夫屯
日華事変	〃	曹長	山本喜一	〃	〃一四・四・二六	中華民国江西省高安県熊村西北方高地
第二次大戦	〃	上等兵	細野正武	〃	昭和一八・六・二八	台湾高尾陸軍病院
〃	〃	大尉	遠藤誠	〃	〃一八・七・一	東京第二陸軍病院
〃	〃	兵長	山本徹	〃	〃一九・四・三	ニューギニア・アイタペ島
〃	海軍	軍属	宮沢太一	〃	〃一九・六・二五	南洋群島
〃	陸軍	兵長	佐久間忠司	〃	〃一九・七・二五	中支・武昌陸軍病院
〃	海軍	一等兵曹	横田成一	〃	〃一九・九・二五	ボルネオ沖海戦
〃	陸軍	兵長	宮崎仁	〃	〃一九・一〇・二〇	ビルマ国・シュラーボ県ダバイン
〃	海軍	上等兵曹	横田康郎	〃	〃一九・一一・二九	太平洋上航空母艦信濃艦上
〃	陸軍	上等兵	山本勇治郎	〃	〃一九・一二・六	中華民国武昌兵站病院
〃	〃	兵長	山本當雄	〃	〃一九・	東部ニューギニア
〃	海軍	水兵長	細野耕作	〃	〃二〇・一・	仏印パタラン岬ガダルカナル島
〃	陸軍	兵長	宮崎孔	〃	〃二〇・二・一七	朝鮮古茂山陸軍病院

〃	〃	上等兵	河津　丑夫	〃	五一	〃　二〇・三・二三	中華民国胡南州兵站病院
〃	海軍	二等兵曹	山本　松之助	〃	二、〇一三	〃　二〇・六・二九	南太平洋モルッカ諸島方面
〃	陸軍	伍長	小林　吉雄	〃	一、七〇〇	〃　二〇・七・一	レイテ島カンキボット山
〃	海軍	上等水兵	山本　敏男	〃	二、二〇七	〃　二〇・八・三	霞ヶ浦海軍病院成田分院第一病舎
〃	陸軍	伍長	金田　春夫	〃	一、八三一	〃　二〇・八・八	中支・湖南省兵站病院
〃	〃	軍曹	小林　隆	〃	一、九九八	〃　二〇・八・三	濠洲ハルマヘラ島
〃	〃	上等兵	河津　安治	〃	三、〇一八	〃　二〇・八・二五	満洲

（備考）「戦没の場所」については、東庄町役場の「戦没者名簿綴」などの記述を、ほぼそのまま転記したため、若干、表記に不統一がある。

歴代町村長一覧

神代村

代	氏名	出身区	就任年月日	退任年月日
初	平野藤右衛門	平山	明治三・五・二五	明治二四・一・一五
二	宇井兵作	八木山	〃 二四・一・一六	〃 二七・四・一〇
三	宇佐美萬治郎	窪野谷	〃 二七・四・一一	〃 二七・一〇・三〇
四	木内貞順	東和田	〃 二七・一〇・三〇	〃 二九・一・三〇
五	菅谷太右衛門	櫻井	〃 二九・三・一	〃 三〇・三・三〇
六	宮本岩太郎	大久保	〃 三〇・四・一〇	〃 三一・一・六
七	宇井兵作	八木山	〃 三一・二・八	〃 三三・一・一〇
八	伊藤八之助	平山	〃 三三・一・一九	〃 三三・一・一八
九	伊藤泰三	高部	〃 三三・一・一四	〃 三四・二・二四
一〇	上代麟五郎	稲荷入	〃 三五・一・一六	〃 三六・二・一一
一一	向後雅雄	大久保	〃 三六・三・二七	〃 三六・二・七
一二	宮崎忠左衛門	東和田	〃 三六・二・二八	〃 三七
一三	上代貞治郎	東和田	〃 三七・三・四	〃 三七・四・二六
一四	上代麟五郎	稲荷入	〃 三七・五・一一	〃 三七・九・二
	小川東司	村長職務管掌	〃 三七・一〇・二五	〃 三七・一一・一四
一五	木内剛	東和田	〃 三七・二・二五	〃 四一・二・一四
一六	伊藤八之助	平山	〃 四三・一・二四	大正二・一・一三
一七	椎名愿治	大久保	大正二・一・一七	〃 四・七・二二
一八	吉田耕三	平山	〃 四・九・二	〃 五・二・九
一九	宮本明雄	大久保	〃 五・三・三	〃 五・六・二九
二〇	佐藤誠	大久保	〃 五・八・九	〃 九・八・八
二一	木内剛	東和田	〃 九・一〇・三	〃 一〇・三・七
二二	向後雅雄	大久保	〃 一〇・四・四	〃 一二・二・三
二三	菅谷元治	神田	〃 一二・二・三	〃 三・一・一九
二四	佐伯救	大久保	〃 三・二・二八	〃 一五・六・二四
二五	菅谷浅五郎	櫻井	〃 一五・六・三〇	昭和四・一・五
二六	石井子之助	平山	昭和四・一・七	〃 八・一・六
二七	野口昭	大久保	〃 八・三・二	
二八	高木用平	八木山	〃 一〇・二	
二九	吉田清太郎	平山	〃 一一・三・三	〃 一一・七・三
三〇	越川広藏	高部	〃 一一・七・九	〃 一二・二・六
	郡より村長事務派遣			
三一	吉田知三	平山	〃 一三・一・三〇	〃 一七
三二	向後省三	大久保	〃 一七・一・一	〃 二・一〇・三
三三	野口博	大久保	〃 二・三・四・五	〃 二六・四・四
三四	上代克己	稲荷入	〃 二六・四・三	〃 三〇・七・一九

笹川町

代	氏名	出身区	就任年月日	退任年月日
初	多田庄兵衛（彦次郎）	仲内	明治三・五	明治二六・五
二	野口進	宿浜	〃 二六・六	〃 二八・九
三	小山富之助	宿浜	〃 二八・一〇	〃 二九・四
四	高安政太郎	鹿野戸	〃 二九・五	〃 二九・一・一
五	常世田辰之助	根方	〃 二九・一一	〃 三〇・四・一五
六	野口藤兵衛	宿浜	〃 三〇・四・一六	〃 三一・一一
七	五十嵐荘太郎	大木戸	〃 三一・三・一三	〃 三六・九・一一
八	石毛嘉一郎	鹿野戸	〃 三六・九・一三	〃 三七・二・一八
九	多部田子之助	根方	〃 三七・二・一九	〃 三七・七・四
一〇	五十嵐荘太郎	大木戸	〃 三七・七・四	〃 四一・一〇・三
一一	市橋寅松	根方	〃 四一・一〇・三一	〃 四三・四・三
一二	五十嵐荘太郎	大木戸	〃 四三・四・三	〃 四四・九・三
一三	常世田辰之助	根方	〃 四四・九・三	大正二・三
一四	石毛嘉一郎	鹿野戸	大正二・三・三一	〃 四・八・三〇
一五	五十嵐荘太郎	大木戸	〃 四・一〇・八	昭和一五・三・三一
一六	岩井仙蔵	根方	昭和一六・六・二一	〃 二〇・六・二〇
一七	多田庄兵衛（慶次郎）	仲内	〃 二〇・八・六	〃 二一・三・二七
一八	五十嵐丑松	大木戸	〃 二三・四・八	〃 二六・四・四
一九	土屋進	根方	〃 二六・四・三	〃 三〇・三・二四
二〇	五十嵐丑松	大木戸	〃 三〇・四・三〇	〃 三〇・七・一九

橋村

代	氏名	出身区	就任年月日	退任年月日
初	岩田藤兵衛	石出	明治三・五・一	明治三五・一二・二六
二	柳堀太兵衛	新宿	〃 二六・一・二〇	〃 二八・四・二〇
三	関亮柄	羽計	〃 二八・五・一七	〃 二九・三・一〇
四	遠藤三左衛門	東今泉	〃 二九・三・三五	〃 三六・三・一
五	宮沢萬治	今郡	〃 三六・三・二	〃 三六・五・三一
六	飯田助作	宮本	〃 三六・六・一	〃 三八・二・二二
七	柳堀六左衛門	新宿	〃 三九・三・二九	大正六・一〇・一六
八	谷本豊治郎	谷津	大正七・三・二三	〃 一四・二・二二
九	大柳與平	東今泉	〃 一四・一・八	昭和五・一・七
一〇	田谷由藏	石出	昭和五・二・六	〃 六・一〇・三〇
一一	滑川保治郎	新宿	〃 六・一・八	〃 一七・二・二五
一二	田谷由藏	石出	〃 一七・三・九	〃 一八・三・一
一三	宮沢賢司	今郡	〃 一八・三・九	〃 二一・一・二三
一四	羽計晟	羽計	〃 二三・四・五	〃 二〇・七・一九

東庄町歴代町助役収入役一覧

東城村

代	氏名	出身区	就任年月日	退任年月日
初	鎌形四郎左衛門	小座	明治三・六・一六	明治二六・五・九
二	向後七郎兵衛	夏目	〃 二六・五・一六	〃 二六・一・一
三	鎌形大助	小座	〃 二六・一・七	〃 二七・八・一〇
四	菅谷佐門	小南	〃 二七・八・二五	〃 三・八・二四
五	宇野沢本藏	夏目	〃 三・九・一〇	〃 三八・四・一
六	鈴木助治	粟野	〃 三八・四・二五	〃 四三・五・九
七	青野勝之助	小南	〃 四三・五・一七	大正七・六・四
八	向後積善	夏目	大正七・六・一八	〃 七・一・二
九	香取茂兵衛	小南	〃 七・二・一九	〃 一一・二・一八
一〇	高橋清次	八重穂	〃 一三・一・八	〃 一四・六・二〇
一一	布施与太郎	夏目	〃 一四・七・二〇	昭和四・一・三
一二	岡野松之助	小座	昭和四・二・一	〃 八・一・三
一三	嶋田辰五郎	小南	〃 八・二・六	〃 八・六・一〇
一四	和田伊四郎	夏目	〃 八・七・七	〃 九・五・八
一五	鈴木藤平	小南	〃 九・八・六	〃 一三・一・一六
一六	鎌形勁	小座	〃 一三・一・一三	〃 一四・一・一五
一七	高橋正雄	八重穂	〃 一四・二・六	〃 一五・四・三
一八	鎌形誉照	粟野	〃 一五・四・二八	〃 二〇・九・一四
一九	高橋正雄	八重穂	〃 二〇・九・二七	〃 二三・四・四
二〇	鈴木佐一	粟野	〃 二三・四・六	〃 二六・四・三
二一	遠藤鎬	小南	〃 二六・四・三	〃 二七・八・三
二二	岡野正雄	小座	〃 二七・八・三	〃 二八・二・三
二三	布施儀三郎	夏目	〃 二八・二・三	〃 三〇・七・九

町長

代	氏名	出身区	就任年月日	退任年月日
初	羽計晟	羽計	昭和三〇・八・二五	昭和三・九・三〇
二	向後省三	大久保	〃 三・一〇・五	〃 三五・一〇・一四
三	〃	〃	〃 三五・一〇・一五	〃 三九・一〇・一四
四	〃	〃	〃 三九・一〇・一五	〃 四一・一・三・三
五	向後彰	夏目	〃 四二・一・二	〃 四六・一・二〇
六	野口勘司	羽計	〃 四六・一・二一	〃 五〇・一・二〇

東庄町歴代議会議長一覧

助役

七	大後四郎左衛門	鹿野戸	〃 五〇・一・三	〃 五四・一・二〇
八	向後　彰	夏目	〃 五四・一・二	

初	五十嵐丑松	大木戸	昭和三〇・九・六	昭和三九・二・三
二	〃	〃	〃 三四・九・六	〃 三八・九・五
三	〃	〃	〃 三八・九・六	〃 三九・二・三
四	大後四郎左衛門	鹿野戸	〃 四〇・一・一	〃 四三・二・三
五	〃	〃	〃 四四・一・一	〃 四六・二・一〇
六	稲田肇穂	小南	〃 四六・三・一五	〃 五〇・三・一四
七	五十嵐章夫	大木戸	〃 五〇・四・二	〃 五四・四・二〇
八	〃	〃	〃 五四・四・二	

収入役

初	鈴木佐一	粟野	昭和三〇・九・六	昭和三四・九・五
二	〃	〃	〃 三四・九・六	〃 三五・一〇・三
三	高橋正雄	八重穂	〃 三六・一・一	〃 三九・二・三
四	向後　彰	夏目	〃 四〇・一・一	〃 四一・二・三
五	菅谷甚平	神田	〃 四三・三・一五	〃 四六・三・一四
六	多田　秀	仲内	〃 四六・五・一	〃 五〇・四・二〇
七	鈴木利雄	粟野	〃 五〇・五・一	〃 五四・四・二〇
八	石橋敏雄	宮本	〃 五四・六・二〇	

代表

初	五十嵐憲治	大木戸	昭和三〇・七・二〇	昭和三〇・二・三〇
二	向後省三	大久保	〃 三〇・二・一	〃 三二・一〇・八
三	清水利一	石出	〃 三二・一・八	〃 三四・二・三〇
四	清水利一	石出	〃 三四・二・四	〃 三六・二・三〇
五	岡野正雄	小座	〃 三六・二・五	〃 四一・七・三〇
六	高橋修司	宿浜	〃 四一・七・三	〃 四二・二・二〇
七	〃	〃	〃 四二・二・六	〃 四六・二・二〇
八	〃	〃	〃 四六・二・四	〃 四八・二・二〇
九	海宝喜一	小南	〃 四八・二・一	〃 五〇・二・二〇
一〇	海宝精太郎	〃	〃 五〇・二・一	〃 五四・二・二〇
一一	高橋誠	高部	〃 五四・二・一	

東庄町歴代議会議員一覧

○……退職
□……補選

町村合併時　昭和三〇・七・二〇～三〇・一一・三〇（町村合併により任期延長）

石毛文行　谷本健夫　川口由松　高橋俊三郎　海宝喜一　林正義
鎌形志一　石毛惣左衛門　根本満太郎　渡辺潔　越川末三郎　木内勝男
鈴木啓治　阿津祐之　柳堀元吉　河連徳治　椎名和　篠本誠藏
布施重幸　佐久間正作　柳堀吉五郎　高木源太郎　多田俊夫　岡野春三
高橋岩雄　山本源一　滑川啓助　小林利市　野口寛　山本與一郎
池永利一　小野寿男　林寛躬　椎名憲一　林幹　塚本国松
掛巣英太郎　飯田健介　大網運　宇佐美政一　五十嵐憲治　山内進
向後彰　竹田竹松　石毛寅雄　大根治男　伊藤要平　土屋昌躬
鈴木五郎　伊藤恵二郎　堀内美代治　星野長雄　岡野繁雄
鈴木貞治　青柳要男　小川徳造　清水澄　宮沢喜一
山野辺彦柄　石毛英一郎　山口英司　菅谷誠造　清水利一
野口勘解由　保立博　高野廣　高橋修司　石毛豊太郎

初代 昭和三〇・一二・一～三四・一一・三〇

山本与一郎　上代俊一郎□　鈴木熊藏　向後省三○　塚本国松　木内勝男
稲田英治　高木豊治　山内進　野口寛　石毛嘉三郎○
高野禎祐　柳堀喜兵衛　郡保太郎　清水利一　宇井藤司
土屋昌躬○　林栄造　越川末三郎　山本周助○　桜井重右衛門
高橋修司　松本誉柄　椎名和　川島新藏　五十嵐憲治

二代 昭和三四・一二・一～三八・一一・三〇

鈴木良助　石毛光全　鈴木藤雄　宇佐美勇三郎　河津朝雄　高橋修司
田谷松雄　伊藤要平　高安五三郎　岡野繁雄○　多田俊夫□　高嶋光一
桜井重右衛門　嶋田真佐夫　柳堀喜兵衛　岡野正雄　林幹　木内勝男
野口寛□　清水利一　石毛利一　鈴木己之助　林栄造○
岩田利之○　菅谷治三郎□　五十嵐憲治　稲田肇穂　宮沢和

三代 昭和三八・一二・一～四二・一一・三〇

遠藤三左男　郡保太郎　菅谷辰丸　飯田保二　木内勝男　山野辺栄一
清水澄　宮口重雄　宮沢喜一　常世田元吉　石井正義　嶋田真佐夫
岡野正雄○　高嶋光一○　山本徹夫　高橋修司　鎌形恒明　岡野春三□
清水太一　清水利一　石毛豊太郎　土屋済　篠本誠藏□
鈴木己之助　石井卯之助　林正義　石橋敏雄□　菅谷治三郎□

四代 昭和四二・一二・一～四六・一一・三〇

清水　澄○　小林　健　越川寅松　高橋徳次朗　石井正義　海宝精太郎
遠藤三左男　島田真佐夫　常世田元吉　石毛文行　高橋修司
菅谷誠造　渡辺治右衛門　山野辺栄一　高橋　誠□　高木正夫
石橋敏雄　土屋　済　宮内篤一　郡　保太郎　海宝喜一
鎌形恒明　菅谷辰丸　石毛　秀　越川栄治　林　将男

五代 昭和四六・一二・一～五〇・一一・三〇

高木正夫　大柳義雄　伊井　力　鎌形恒明　海宝精太郎
海宝喜一　高橋修司　高橋徳次朗　吉田孝成　飯田貞治郎
嶋田真佐夫　山野辺　巌　石毛文行　小林　健　斉藤幸男
渡辺治右衛門　高橋　誠　清水　精○　岩井正治　宮内篤一
土屋　済　石毛　秀　大根義夫　林　将男　長瀬八郎

六代 昭和五〇・一二・一～五四・一一・三〇（これより大選挙区制となる）

山本宣雄　飯田寅次郎　伊井　力　掛巣金次　林　将男　吉田孝成
保立冨男　鈴木成雄　高橋徳次朗　山野辺　巌　海宝精太郎
嶋田真佐夫　岩瀬幸治郎　石毛文行　高橋　誠　野口政司
渡辺治右衛門○　長瀬八郎　林　忠一　吉沼　実　伊藤秋雄
遠藤昭二□　花香　幹　花香貞雄　岩井正治○　森　正治

東庄町歴代農業委員一覧

七代 昭和五四・十二・一〜

笹本新理　花香貞雄　岩田利雄　森　正治　遠藤昭二
常世田　健　掛巣金次　河津正康　吉田孝成　飯田寅次郎
前田武守　山野辺　巌　土屋　済　北山武彦　鈴木成雄
永井　寛　高橋　誠　野口政司　多田庸之助　岩瀬幸治郎
林　忠一　神岡闘志　伊藤秋雄　川島定治　長瀬八郎

昭和三〇・七〜三一・一（合併により任期延長）

宮内義抽　野口正太郎　伊井義男　江鳩整寿　嶋田真佐夫　伊藤賢太郎
石井正義　稲田英治　池田幸次郎　飯田金次　掛巣新太郎　大柳太治平
高野　広　飯笹一郎　山本徹夫　土屋奉巳　稲田肇穂　山本源助
林　営造　宮崎平八郎　清水利一　城之内　博　高橋清五郎　宮沢喜一
大後七五三次郎　伊藤毅一　鈴木藤雄　林　豊次　向後省三　鈴木　茂
飯田文雄　野口　寛　高橋正雄　多田和夫　野口桂治

昭和三一・二〜三四・一

江鳩整寿　岡野正雄　石毛　秀　高橋正雄　石毛寅雄　野口　寛
林　豊次　清水　澄　向後省三　山中昌一　笹本誠治　稲田肇穂

菅谷治三郎　川嶋政雄　椎名憲一　山野辺栄一
勝野　達　野口桂治　青柳一雄　柳堀千秋

昭和三四・二〜三七・一

宮内義抽　塙　剛　伊藤要平　岡野正雄　清水利一　五十嵐憲治
嶋田真佐夫　岡野繁雄　高安伝一　山野辺栄一　青柳一雄
清水　澄　野口　寛　鈴木龍五郎　小林昇蔵　石毛　秀
柳堀千秋　稲田肇穂　鈴木正雄　柳堀恒雄　菅谷誠造
多部田弘道　石毛寅雄　林　豊次　稲田英治　勝野恒一

昭和三七・二〜四〇・一

野口　寛　山野辺栄一　清水　澄　岡野　孝　柳堀恒雄　岡野繁雄
宮沢喜一　清水利一　柳堀千秋　小林昇蔵　五十嵐憲治　多田　秀
石毛寅雄　青柳一雄　伊藤要平　稲田英治　林　清　小和瀬正三
林　豊次　石毛　秀　塙　剛　高木金造　多田朋雄
稲田肇穂　嶋田真佐夫　花香研治　高橋清五郎　勝野恒一

昭和四〇・二〜四三・一

石井正義　常世田元吉　小和瀬正三　清水利一　大柳順康　高橋　誠
稲田肇穂　向後正路　高木　繁　石毛　秀　鎌形志一　高橋新一
塙　剛　大後七五三次郎　山本啓作　河連徳治　嶋田真佐夫　柳堀喜兵衛
宮内智次　山野辺栄一　石橋芳男　越川寅松　勝野恒一

昭和四三・二〜四六・一

石井正義	岩井正治	高橋誠	伊藤賢太郎	山本亮柄
清水利一	柳堀忠男	石井保	稲田肇穂	飯田稔	大柳順康
鈴木龍五郎	飯田金次	山野辺巌	高橋新一	多田和夫	箕輪泰治郎
鎌形志一	嶋田真佐夫	鈴木成雄	菅谷昇一	山野辺栄一	保立佐太郎

昭和四六・二〜四九・一

石井正義	堀江康雄	山野辺巌	清水利一	鈴木喜一	保立佐太郎
山中昌一	高橋正夫	鈴木成雄	高橋清五郎	伊井力	野口重雄
常世田元吉	大後七五三次郎	花香幹	山本亮柄	嶋田真佐夫	伊藤公治
柳堀忠男	山野辺栄一	石橋敏雄	飯田稔	高橋新一	海宝精太郎

昭和四九・二〜五二・一

石井正義	嶋田真佐夫	山本亮柄	保立佐太郎	柳堀忠男	海宝精太郎
高橋誠	常世田元吉	林喜七	菅谷万藏	植松五郎	五十嵐三郎
清水利一	掛巣新太郎	高木理一	箕輪正	高木利雄	大柳義雄
高橋新一	山野辺巌	宮沢喜久夫	鎌形惣一	青柳猛	

昭和五二・二〜五五・一

清水利一	鈴木松平	嶋田真佐夫	伊藤源吾	高橋誠	小沢彦平
海宝精太郎	小林総一	五十嵐三郎	高木重雄	高木理一	北見忠司
向後忠治	林将男	原清明	保立富男	高橋正敏	渡辺治右衛門

山野辺　巌　青柳　猛　土屋　嘉右衛門　野口兵衛　鈴木学之

昭和五五・二～五八・一

石井正義　滑川正雄　高木重雄　嶋田真佐夫　山本宣雄　宮内整一

花香　幹　岡野亮平　土屋　済　青柳　猛　谷本康夫　鈴木松之助

土屋　嘉右衛門　清水利一　林　千蔵　北見忠司　山野辺　巌　木内　弘

河連　茂　海宝精太郎　森　正治　林　英一　原　清明　鈴木賢治

あとがき

昭和五十年、東庄町は旧四か町村が合併して二〇年になりますので、それを記念して後世に残すべき東庄町史の編さんを計画いたしました。十二月の町議会に当時の町長大後四郎左衛門氏の提案で町史発刊の議が提出され決定いたしました。

爾来六年余の歳月を費し漸く上梓のはこびとなりました。この間、編さん委員会に与せられました、協力員、役場職員、諸団体、さらに多数の町民有志の皆様よりの絶大なる御支援、御協力は誠に有難く、衷心より感謝申し上げます。特に、この長期間、ご多忙な勤務の合間を縫って町史編さん事業の全体指導を賜りました川村　優先生ならびに井上準之助・樋口誠太郎両先生には大変なご苦労と、行き届いた有難い御指導をちょうだいいたしましたことに篤く御礼申し上げます。

町史は町の文化活動のひとつとして編さんされたものであります。町民皆様の文化向上のため、また子孫の啓発のために東庄町史が活用されると共に、私どもの郷土発展に資するようお願い申しあげます。

町史発刊に当り永年の御協賛を感謝しご挨拶といたします。

昭和五十七年十二月

町史編さん委員会

会長　遠藤三左男

町史編さん年譜

昭和五十年十二月、東庄町長は町議会へ町史編さん委員会条例の提案を行い、可決をみた。町長の提案趣旨説明は次のようである。

1　町村合併を行って二〇年を経た。この歴史を後世に残すために町史編さんを行いたい。

2　今日この事業を行わなかったら、資料も、また当時を知る者も消失してしまうおそれがある。

3　町史編さん事業は、郡下近隣の先進町において既に行われていることである（この趣旨補足説明は『東庄町史研究』第一号、巻頭「あいさつ」にある）。

一　昭和五十一年は暗中模索の年であった。

五月十四日、第一回町史編さん委員会が招集された。五月一日付で委嘱された編さん委員数は一〇名で、その構成は町内四地域から各二名と役場内の助役、教育長である（委員氏名、任期・異動は別表参照）。事務局構成は、五月一日から遠藤米子、宝理定夫の両氏と十月一日から卜部照角氏の三名である。この会議で町史発刊の予定日を昭和五十五年十二月と定めた。

編さん委員全員が、町史編さん事業に全く未経験であるので、千葉県県史編さん室長川村　優氏に町史編さん業務の全体指導を依頼した。川村　優氏は町史編さんの基本姿勢を「町民の町民による町民のための町史」でなければならないと指導下さった（『東庄町史研究』「創刊によせて」参照）。卜部主幹による作業計画を基に、編さん作業手

順の模索が繰り返えされた。この間に資料収集を強力に進めるために、特別協力員、協力員、協力団体の依頼をした（別表参照）。

二　昭和五十二年は史料の収集と古文書解読に四苦八苦の年であった。

東庄町読書会連絡協議会は、すでに昭和四十年ごろから、自主的に区有文書、旧役場文書等古文書の調査を行っていた。町史編さん委員会では、この調査を手掛りとして史料の採訪を開始した。四地区別に、編さん委員と協力員の合同会議を開いて、史料収集のための協力を呼びかけた。また町広報『東庄』（昭和五十一年十月から同五十二年六月まで）や、有線放送による依頼も行われた。個人所有の史料調査には、名主、戸長、村長などの役職経験者の家から始めた。台地の三地域から史料が多く出され、利根川沿いの各区からの提供が少なかった。

こうして史料の収集は開始されたが、文書の解読に難渋した。講師による古文書の取扱い、解読の指導を受け、また委員各自による研修が行われたが、解読作業は遅々として進まなかった。そこで十二月一日、井上準之助氏を嘱託に委嘱して指導を受けることとした。以降解読、筆写の作業は常世田副会長を中心にして著るしく進展した。

三　昭和五十三年は史料収集、解読、史料目録作成が進んだ年である。

史料調査、史料目録作成、史料の複写、古文書の解読筆写が進むと共に資料の保存対策が考究され、当初史料の複写を悉皆の方針で進めた。しかし史料の膨大な量と、通史執筆のための必要資料の選択という観点から、フィルム化に切り替え、リーダープリンターの取り付けとなった。史料の選択撮影が行われた。史料の提供者ならびに協力者に感謝の印として東氏家紋染め抜き（宝理氏図案）の手拭を配った。

四　昭和五十四年は通史執筆計画に入った年である。

四月二十五日、先に定めた町史編さん計画の見直しが行われ、発刊日を昭和五十七年十二月二十日とした。続い

て目次案と執筆者の検討を行った。本事業当初川村氏の指導で町民による町史の編さんを基本としたので、近・現代編は町内委員の執筆とし、近世以前は、専門の知識と研究が必要なので、下記の方々に委嘱することにした。それは概ね、原始古代を小松　繁氏、中世を伊藤一男氏、近世を井上準之助氏と川村　優氏に、中・近世の文化宗教関係を山本直彦氏に願うこととした。執筆者の決定と同時に執筆要領を定め、分担する時代の史料調査が開始された。執筆者と編さん委員の合同会議によって、各時代間の調整や目次の検討が行われた。この間に編さん委員も、執筆、史料の二部会に分かれた。執筆部会では、近・現代の史料目録を、吉田委員を中心にして、年次別に整理し、その年々の主要事象の抽出を行い、その上で近・現代目次案の作成を進めた。

五　昭和五十五年は執筆者を中心とする史料調査活動が活発に展開された年である。

年初、全町域にわたる原始古代遺物の分布調査とその整理が、委員、協力員等多数の協力によって行われた。続いて、近・現代ならびに民俗編の執筆者を次のように決めた。近代を吉田、石毛委員に、現代を樋口誠太郎氏を委嘱（七月十二日）して依頼することとした。樋口氏には近・現代を通して指導願うこととした。なお近・現代のうち、教育関係は鈴木委員の執筆とした。

八月に入って、大利根博物館長平野　馨氏より「町史と民俗慣行について」の指導を受けた。民俗慣行編の執筆を宮崎、遠藤両委員によることとし、引続いて民俗に関する資料収集が宮崎委員の活躍により全面的に展開され、多くの方々の支援を受けた。収集された資料は町史編さん委員会の内部資料「民俗慣行基礎資料」（第一号～三号）として印刷された。

六　昭和五十六年は通史執筆が進められた年である。

二月、執筆項目、執筆要領の協議を経て執筆作業が進められた。両三度の執筆者、編さん委員の合同会議をもっ

て、執筆内容や進行上の打ち合せが行われ、原稿〆切日を十月二十日とした。原稿〆切日の近づいた十月十四日、町史編集計画を立案し、原稿通読のための基本要項を決定した。編集委員六名（氏名は別表参照）の決定をみた。十一月六日、第一回編集会議で序章の原稿検討を行い、以下順次一章、二章、四章と進めた。

七　昭和五十七年は編集活動が進められて通史完成の年である。

五十七年に入って、一～三月の間は毎月三日以上におよぶ編集会議が開かれ、四章近代、民俗慣行編と原稿検討が進められた。遅れ勝な執筆作業を進めるために完成原稿の最終日を三月末日と定めて、原稿の完成を強行した。この間に印刷業者の検討も進み、六月八日株式会社「ぎょうせい」との契約が結ばれ、以降は完成原稿の読み込み、さらに三回の校正を行って完成の運びとなった。

以上、東庄町史編さんの過程を、編さん委員会活動を中心に述べた。

通史編集の作業は「原稿通読のための基本要項」に書かれた、編集にあたっての基本姿勢の四つの観点から行った。すなわち、

1　町史編さんの目的にてらして、表現が町民に親しまれるものであること。

2　記述内容は、公正かつ実証的なものを第一原則とすること。

3　記述上の問題点は編集会議を経て、編さん委員会の判断に委ねること。

4　原稿に、欠落項目や削除項目の生じた場合は委員会の判断にもとづく。

以上の観点から、通史を見直したとき、編集過程で幾箇所かの修正補筆を行ったのであるが、未だ問題点の残されたことを反省する。特に町史であるから全町域をカバーした記述となるよう、そのため、史料の収集に最大の努力を払った。しかし時間的に調査力には限界があったため、記述に幾分の地域的偏りが見られることも反省点である。

町史編さん年譜

町史編さんはひと先ず終わるが、町史研究の終末ではない。今後はこの町史を活用される方々によって、さらに調査研究が進められ、より立派な町史に修正加筆されることを願うものである。

昭和五十七年十二月

（編集委員長　石毛　豊）

編さん関係者一覧

東庄町史編さん委員（○会長　△副会長）

第一期（昭和五一・五・一～昭和五三・四・三〇）	第二期（昭和五三・五・一～昭和五五・四・三〇）	第三期（昭和五五・五・一～昭和五七・四・三〇）	第四期（昭和五七・五・一）	備考
○遠藤　三左男	○遠藤　三左男	○遠藤　三左男	○遠藤　三左男	
△常世田　元吉	△常世田　元吉	△常世田　元吉	△常世田　元吉	
鈴木　幸次	鈴木　幸次	鈴木　幸次	鈴木　幸次	
鎌形　玄一	鎌形　玄一 渡辺　亀次郎	渡辺　亀次郎 大根　弥太郎	大根　弥太郎	鎌形委員病気のため昭和五三・八・二五日辞任 五三・一〇・一渡辺氏委嘱 渡辺亀次郎五六・二・四没後任に大根弥太郎（五六・六・一）
石毛　豊	石毛　豊	石毛　豊	石毛　豊	
宇井　藤司	宮沢　和	宮沢　和	宮沢　和	
宮崎　雅夫	宮崎　雅夫	宮崎　雅夫	宮崎　雅夫	
吉田　仁	吉田　仁	吉田　仁	吉田　仁	
五十嵐　章夫	五十嵐　章夫	五十嵐　章夫	五十嵐　章夫	
成毛　民夫	成毛　民夫	成毛　民夫 塚本　敏男	塚本　敏男	

東庄町史編集委員（○委員長　△副委員長）

氏名	備考
井上準之助	国際商科大学教授
樋口誠太郎	千葉県立教員養成所教官
○石毛　豊	東庄町史編さん委員
△常世田元吉	東庄町史編さん委員
吉田　仁	東庄町史編さん委員

川村　優（総合指導）千葉県史編さん室長

執筆者

氏名	執筆分野	備考
塚本　敏夫	序章（東庄町の現況）一節、二節、三節、第五章（現代）二節（一）、四節（一）・（三）	東庄町役場企画課長

編さん関係者一覧

小松　繁	第一章（原始・古代）一節、二節、三節	銚子市立銚子高等学校教諭
伊藤　一男	第二章（中世）一節、二節、三節、四節	武射史学会事務局長
井上準之助	第三章（近世）一節、二節、三節(一)、四節、五節、六節、七節(一)、九節(一)、十節、十一節	国際商科大学教授
川村　優	第三章（近世）七節(二)・(三)	千葉県史編さん室長
吉田　仁	第四章（近代）一節(一)・(二)・(三)・(四)二節(三)・(四)、三節、四節、五節	東庄町史編さん委員
山本　直彦	第二章（中世）五節、第三章（近世）八節(一)・(二)、九節(二)、第四章（近代）一節(五)	千葉県立匝瑳高等学校教諭
石毛　豊	第四章（近代）六節(一)・(二)・(四)、七節、八節、九節(一)・(二)・(四)、十節	東庄町史編さん委員
鈴木　幸次	第四章（近代）二節(一)・(二)、六節(三)、九節(三)、第五章（現代）一節(三)	東庄町史編さん委員
樋口誠太郎	第三章（近世）三節(二)、第五章（現代）一節(一)・(二)・(四)・(五)・(六)・(七)、二節、三節、四節(二)、第六章（民俗・慣行）七節(二)	千葉県立教員養成所教官
宮崎　雅夫	第六章（民俗・慣行）一節、二節、三節、四節、五節、六節、七節(一)	東庄町史編さん委員

東庄町史編さん協力員

氏名	区名	在任期間
特別協力員		
飯田秀眞	宮本	昭和五一・一一・一八～五二・一二・二九没
上代克己	稲荷入	昭和五一・一一・一八～五三・六・三没
松田泰雄	小南	昭和五一・一一・一八～
柳瀬廣雄	菰敷	昭和五一・一一・一八～五三・四・二八没
山本直彦	新宿	昭和五一・一一・一八～
協力員		
飯田敏雄	大友	昭和五三・六・一～
岡本　叡	大久保	昭和五三・六・一～
上代義正	東和田	昭和五一・一一・一八～
川口　汪	大久保	昭和五五・五・一～
小林利市	平山	昭和五一・一一・一八～
菅谷　栄	小貝野	昭和五一・一一・一八～
高木　伊右衛門	八木山	昭和五一・一一・一八～
高木理一	窪野谷	昭和五三・六・一～
野口義雄	小貝野	昭和五五・五・一～
花香幹	神田	昭和五三・六・一～
穂野誠	舟戸	昭和五一・一一・一八～
宮沢和	高部	昭和五一・一一・一八～五三・四・三〇

山中昌一	高部	昭和五三・六・一～
石毛貞雄	鹿野戸	昭和五一・一・一八
石毛竹松	孤敷	昭和五一・一・一八～五三・四・一六没
市橋直衛	根方	昭和五一・一・一八～
川島清	新田	昭和五一・一・一八～
菅谷達雄	大木戸	昭和五一・一・一八～
土屋嘉右衛門	宿浜	昭和五三・六・一
野口徳蔵	大木戸	昭和五一・一・一八～
林貞治郎	宿浜	昭和五一・一・一八～五七・一・五没
飯田耕一	宮本	昭和五一・一・一八～
伊藤恵二郎	東今泉	昭和五一・一・一八～
郡保太郎	新宿	昭和五一・一・一八～
小林茂樹	青馬	昭和五三・六・一～五七・二・三没
小林保	石出	昭和五五・一～
関亮三	羽計	昭和五三・六・一
高嶋実	青馬	昭和五一・一・一八～五三・六・一
田谷鋭二	石出	昭和五一・一・一八～五四・三・三没
保立佐太郎	石出	昭和五一・一・一八～
宮沢等	今郡	昭和五三・六・一～
山内虎彦	羽計	昭和五一・一・一八～五三・六・一
山本源蔵	谷津	昭和五五・五・一～
谷本康夫	谷津	昭和五三・六・一～五五・五・一
飯笹康雄	小座	昭和五一・一・一八
板橋健雄	小南	昭和五一・一・一八～
大根弥太郎	夏目	昭和五三・六・一～五六・五・三一

小沢宏	粟野	昭和五一・一・一八～
向後馨	夏目	昭和五三・六・一～
鈴木繁勝	八重穂	昭和五一・一・一八～五三・五・三〇
高橋正雄	小南	昭和五一・一・一八～五七・一・三〇没
渡辺亀次郎		昭和五一・一・一八～五三・九・三〇

町史編さん資料提供者

部落(区)名	氏名	部落(区)名	氏名
粟野	粟野区	〃	土古新一
〃	林碩也	〃	山田岑生
〃	渡辺豊治	〃	鈴木藤雄
小座	小座区	〃	小野神社
〃	鎌形玄一	〃	海宝精太郎
〃	鎌形志朗	〃	菅谷哲夫
〃	高森千代松	〃	宇井豊樹
〃	岡野茂男	〃	高橋正雄
小南	小南区	夏目	高木重雄
〃	福聚寺	〃	向後彰
〃	藏福寺	〃	掛巣市郎右衛門
〃	青野靖雄	〃	安藤誠
		〃	永嶋俊一

〃	羽計	羽計区	宮沢靖夫
〃	〃	関亮三	〃
〃	〃	羽計致昭	〃
〃	〃	吉祥院	〃
〃	〃	山内虎彦	〃
〃	〃	田谷昇	谷津
〃	〃	田谷友之	〃
〃	宮本	宮本区	〃
〃	〃	飯田眞也	石出
〃	〃	飯田一俊	〃
〃	〃	飯田武士	〃
〃	〃	東保胤	〃
〃	〃	飯田義雄	〃
〃	東今泉	東今泉区	青馬
〃	〃	高嶋秀雄	〃
〃	〃	青柳富男	〃
〃	〃	東泉寺	〃
〃	〃	岡野秀二	新宿
〃	〃	遠藤三左男	〃
〃	〃	伊藤英雄	保存館
〃	〃	大柳義雄	東町
今郡	今郡区	今郡実行組合	仲内
〃	〃	宮口祥雄	鹿野戸
〃	〃	郡光嗣	根方
大木戸	〃	市橋直衛	〃
〃	〃	高木堅吾	〃
〃	〃	仲内区	〃
〃	仲内	鹿野戸区	〃
〃	〃	東町区有	〃
〃	〃	天保水滸伝遺品館	〃
〃	〃	秀蔵院	〃
〃	〃	伊井茂	〃
〃	新田	青馬区	〃
〃	〃	小林茂樹	〃
〃	〃	佐久間清一	〃
〃	〃	河津貞夫	〃
〃	〃	林福寺	〃
〃	〃	清水利一	〃
〃	〃	吉田清雅	〃
〃	〃	谷本馨	〃
〃	〃	谷津区	〃
〃	〃	吉田仁	〃
〃	〃	実川角太郎	〃
〃	〃	多田五郎右衛門	〃
〃	〃	多田和夫	〃
〃	〃	東福寺	〃
〃	〃	前田アサ	〃
〃	〃	西福院	〃
〃	〃	土屋利夫	〃
〃	〃	常世田元吉	〃
〃	〃	土屋好美	〃
〃	鹿野戸	鹿野戸区	〃
〃	〃	伊藤勇	宿浜
〃	〃	石毛貞雄	〃
〃	〃	妙幢院	〃
〃	〃	石毛太郎右衛門	〃
〃	〃	石毛紀一郎	坊別
〃	〃	遠藤良夫	〃
〃	〃	鈴木啓作	新切
〃	〃	遠藤隆	孤敷
〃	〃	青柳幸助	東和田
〃	〃	川島二人	〃
〃	〃	林保雄	〃
〃	〃	林芳男	〃
〃	〃	八坂神社	〃
〃	〃	仲内区	小貝野
〃	〃	多田庄一郎	〃
〃	〃	多田庄兵衛	〃
〃	〃	大木戸区	〃
〃	〃	飯田ツネ子	〃
〃	〃	五十嵐光弘	〃
〃	〃	野口政司	〃
〃	〃	五十嵐泰三	〃
〃	〃	野口德藏	〃
〃	〃	五十嵐光武	〃
〃	〃	向後俊隆	〃
〃	〃	五十嵐晃夫	〃
〃	〃	林良雄	〃
〃	〃	宿浜区	〃
〃	〃	林俊雄	〃
〃	〃	土屋清美	〃
〃	〃	五十嵐功	〃
〃	〃	船手組合	〃
〃	〃	新切大師講	〃
〃	〃	柳瀬ちか	〃
〃	〃	東和田区	〃
〃	〃	宮崎雅夫	〃
〃	〃	上代金吾	〃
〃	〃	木内勝男	〃
〃	〃	菅谷昇一	〃
〃	〃	小貝野区	〃
〃	〃	林元晴	〃
〃	〃	菅谷栄	〃
〃	〃	野口義雄	〃

平山	〃	平山区	小林元治	〃
〃	〃	小林元治	〃	〃
窪野谷	〃	窪野谷区	〃	〃
〃	〃	天福寺	大木戸	〃
〃	〃	高木辰弥	小南	〃
〃	〃	窪谷神社	舟戸	〃
〃	〃	秀弘会	小南	〃
〃	〃	高木理一	大木戸	〃
大久保	〃	大久保区	干潟町	〃
〃	〃	佐藤邦寿	櫻井	〃
〃	〃	向後喜代	大木戸	〃
高部	〃	高部区	〃	〃
〃	〃	高部婦人会	〃	〃
〃	〃	宮沢和	〃	〃
〃	〃	多田進	〃	〃
〃	〃	越川芳松	小見川町	高木伊右衛門
大友	〃	大友区	岡飯田	戸主会
〃	〃	飯田敏雄	多古町	高安正巳
神田	〃	神田区	小見川町	旧笹川町役場
〃	〃	江鳩左門	貝塚	〃東城村役場
〃	〃	菅谷長兵衛	多古町	〃神代村役場
〃	〃	菅谷勘兵衛	南玉造	〃東城村公民館
稲荷入	〃	上代和男	銚子市	〃笹川町公民館
舟戸	〃	菅谷士郎	諸持町	高野宏一
八木山	宮原町	宇井藤司	佐原市	菅谷久一
				上代光祐
				高野基二
				櫻井区
				菅谷美智子
				芳泰寺
				飯田重胤
				菅佐原治郎左衛門
				八木芳和
				諸持町
				野口良雄
				鈴木光国

大木戸	五十嵐晃夫	〃	笹川駅	
〃	石井済	小見川町	小見川警察署	
佐原市	佐原市立中央図書館	東庄町	〃東庄幹部派出所	
〃	県立大利根博物館	東庄町	〃神代駐在所	
千葉市	県庁文書	〃	東庄町漁業組合	
〃	県立中央図書館	〃	笹川小学校	
東庄町	東庄町農業協同組合	〃	神代〃	
〃	東庄郵便局	〃	東城〃	
〃	橘郵便局	〃	橘〃	
〃	小南郵便局	〃	石出〃	
		〃	東庄中学校	

事務局職員

氏名	職名	備考
岩男敏郎	総務課長	
卜部照角	主幹	昭和五三・一一・三〇退職
遠藤米子	編さん係長	昭和五七・七・一より嘱託
宝理定夫	主任主事	

東庄町史（下巻）

昭和五十七年十二月二十日　発行

編集　東庄町史編さん委員会

発行　東　庄　町

印刷　株式会社　ぎょうせい

東京都中央区銀座七丁目四番十二号